理事長挨拶　令和７年度事業報告にあたり

社会福祉法人ダブルエッチジェーの令和７年度の事業報告にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

令和７年度は「生活介護事業の見直し」ならびに「国際共生・地域貢献・健康」を基本方針に掲げ、これらを実現すべく様々な取り組みを行ってまいりました。少子高齢化の進行やインフレーションへの移行といった社会情勢の大きな変化に対応するため、人員配置の見直しや共生型・多機能化の検討を進め、法人の安定した経営基盤の構築に努めた一年でありました。

法人としての大きな動きといたしましては、昨年度の碧南地区に続き、令和７年度は半田地区におきましても特定技能のインドネシア人材の受け入れを行いました。これにより両地区での受け入れ体制が整い、海外人材が安定して活躍できる多文化共生の風土づくりと育成が着実に進んでおります。また、「健康」の取り組みにおきましては、職員の福利厚生として導入したフィットネスジムの利用が定着し、さらに利用者様の運動プログラムとしても活用を広げることで、皆が心身ともに健やかに過ごせる環境づくりを進めることができました。こうしたより良い職場環境整備の成果として、「トモニン（仕事と介護の両立支援）」の認定を取得することもできました。

事業運営の面では、かねてより準備を進めておりました名古屋市北区の NPO 法人からの事業譲受が実現し、「フレンズ」の従たる事業所としての運営をスタートさせました。異なる文化を融合させつつ、質の高い包括的な支援を提供できる体制づくりを進めております。

令和８年度も私たちは地域の障害者の方々とともに、より良い社会を築く努力を続けていきますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人ダブルエッチジェー
理事長　　竹内　涼

令和６年度　　社会福祉法人ダブルエッチジェー事業報告書

Ⅰ．精神的基盤

基本理念

共にいき、共につくる

行動規範

私達は地域の人とのつながりを大切にし、開かれた施設を目指します
私達は「三方よし（支えて・受け手・地域)」の精神で取り組みます
私達はここに集まる「すべての人の価値観、文化」を尊重し、「共生社会」を求めていきます
私達は利用者が安心できる環境と安全を配慮します
私達はどのような障害を持つ人でも支援します
私達は人の和を大切にし、元気な挨拶と謙虚さと感動の心を忘れません
私達はプロとして効率の良いやり方を常に考え続けます
私達は法律に則って社会福祉事業を行います
私達は、「働く」が「楽しい」とつながる職場を作ります

Ⅱ．事業計画の達成状況

１．運営方針・運営計画・事業計画（取り組み内容）

・重点課題
① 生活介護事業の見直し
② 国際共生　地域貢献　健康
③ 優良企業認定制度の取得

① 生活介護事業の見直し

・現状と課題

当法人が運営する日中系事業所（生活介護事業）において、事業所間で収益性に著しい格差が生じております。利益率が 10%を超える好調な事業所が存在する一方で、一昨年度より 2 年連続でサービス活動増減差額がマイナスとなり、利益率が-10%を下回る事業所が一部発生しています。
この収益性の差異は、主に「新規利用者の獲得状況」と「稼働率に応じた適正な人員配置」の差に起因しています。利益率の低い事業所では、利用者の急逝や入院、他事業所への移行などによる利用者減に対して新規獲得が追いつかず、結果として職員の過剰配置状態となり、人件費が経営を圧迫しています。

・要因分析（改善へのボトルネック）

当該事業所の経営立て直しに向け、法人として新規利用者の獲得と人員配置の適正化を指導しておりますが、直近での改善効果は表れておりません。これには以下の構造的・実務的な要因があります。
営業成果発現の長期化: 知的障害を有する新規利用者の多くは特別支援学校の卒業生であり、施設見学などの営業活動から実際の利用開始までに概ね 3 年程度の期間を要するため、即効性のある集客が難しい状況です。

人員配置と給付費の構造: 障害福祉サービスの報酬体系は、定員稼働率が上限に近い状態で適正な経営となるよう設計されています。そのため、利用者が減少した段階で人員を縮小調整することは難しく、基準を満たす配置を維持することで相対的に人件費率が高騰しやすいジレンマを抱えています。

・今後の改善策と事業展開

今後の適正な施設運営と収益基盤の安定化に向けて、社会福祉法人としての専門性と強みを最大限に活かした方針へシフトします。
具体的には、地域でニーズが高く当法人の強みでもある「強度行動障害」や「重度心身障害」を有する方々の受け入れ体制をさらに強化します。これらを法人の重点事業である「共同生活援助（グループホーム）」とセットにした包括的な支援体制として展開することで、安定した利用者の確保と、地域福祉への一層の貢献を図ってまいります。

② 国際共生 地域貢献 健康

（イ）国際共生

令和 7 年度においては、前年度より開始した特定技能人材の受け入れを継続し、外国人職員が法人の一員として安定的に就労できる体制づくりを進めた。

令和 6 年度には、法人として初めて特定技能人材 3 名（インドネシア国籍）を受け入れ、生活介護・共同生活援助・放課後等デイサービスの碧南エリアの事業所に配置した。これに続き、令和 7 年度には新たに 1 名を受け入れ、半田エリアの事業所へ配置し、受け入れエリアの拡大を図った。

配置した外国人職員については、各事業所において日常業務および利用者支援に従事し、業務面・生活面の両面で相談体制を行う支援職員によるフォローを継続して実施した。その結果、業務に対する意欲も高いことから、現場における人材不足の緩和や支援体制の安定化に一定の成果が見られた。

一方で日本語による意思疎通や業務理解については個人差があり、指示の伝達や記録業務等において引き続き配慮を要する場面も確認された。このため、日本語力向上支援やコミュニケーション支援等の学習機会を定期的に計画し、より質の高い支援が提供できるよう育成していく。

令和 7 年度の取り組みを通じ、特定技能人材が法人運営を支える重要な人的資源となり得ることが改めて確認できたことから、今後も受け入れ実績と課題整理を踏まえ、国際共生の取り組みを段階的に進めていく。

（ロ）地域貢献

新規活動

・令和 7 年度より、日本福祉大学の社会福祉学部のゼミにおけるフィールドワーク演習、乙川中学校の総合学習を担当し、地元の学生や福祉に興味関心のある学生に福祉教育や現場の体験の機会等を提供した。

継続活動

・アール・ブリュット活動において、毎年 10 月に行っている展示会のみならず、6 年度はアート活動の関係団体との関係性強化の年となった。佐賀県の「PICFA」、滋賀県の「やまなみ工房」の代表の方と意見交換をしつつ、「PICFA」においては、2 月に半田の作家の作品展示の依頼を受け、事業所にて展示を行った。(6 月には佐賀県が主催する「関係するアート展」にも知多半島より、3 人の作家が選出される)
また、創作活動のみならず、作家としての経済活動にもつながる展開として、半田市において、市の公式名刺やクールビズにおけるポロシャツや T シャツの販売等も行うことになり、作家に収入が発生する仕組みも作ることができた。

令和 7 年度展示会等の活動

6 月 17 日～24 日　　有松イオンタウン展示会　（展示作品提供）
9 月 13 日　　スターバックス半田住吉店　ライブペイント
10 月 18 日～10 月 24 日　スターバックス半田住吉店・山代店　アール・ブリュットサテライト展
10 月 24 日～10 月 26 日　はんだアール・ブリュット展
11 月 10 日～12 月 26 日　知多信用金庫・半田図書館　アール・ブリュット巡回展

1月31日～　　飛騨産業株式会社　HIDA名古屋店　展示作品提供
2月7日～2月22日　　PICFA EXHIBITION2026 病院が美術館になる日　（展示作品提供）
2月20日～3月1日　　KIKKAKE８　（展示作品提供）

・NHKから12月に「きょうだい児」に関する取材を受け、当法人の「きょうだい会」に参加している子の取材をしてもらい、4月10日に放送となった。

（ハ）健康
・職員向けの取り組み（福利厚生の充実）
令和6年度より福利厚生の一環として導入した「フィットネスジム利用制度」は運用2年目を迎え、職員の定期利用率は約 10%に達しました。これは全国的なフィットネス普及率と比較しても高い水準であり、制度が着実に定着しています。また、福利厚生委員会が主体となって社内コンペティション「健康オタ活選手権」を企画・実施するなど、職員の健康に対する意識向上と自発的な運動への動機づけ（インセンティブ）を強化しました。

・利用者向けの取り組み（日中活動等の充実）
各施設において、利用者の体力維持・向上を目的とした活動を拡充しました。具体的には、室内での体操プログラムや屋外でのウォーキングの実施時間を増やしたほか、一部の事業所においてはフィットネスジム設備を活用した先進的な運動支援も開始しております。

・今後の課題と方針
職員の運動習慣の定着や健康意識は大きく向上した一方で、利用者に対する健康増進アプローチには、まだ拡充の余地があると考えております。今後は、現在の運動プログラムの推進に加え、「栄養指導」等を含めた多角的な視点から、利用者の心身の健康づくりに向けた働きかけを一層強化してまいります。

③　優良企業認定制度の取得
令和7年度に当法人は、仕事と介護の両立支援に関する取り組みが評価され、厚生労働省の「トモニン」認定を取得した。
近年、職員の年齢構成の変化や勤務年数の長期化により、親の介護と仕事の両立が課題となるケースが増加しており、介護を理由とした離職を未然に防ぐことが法人運営上の重要な課題となっていた。このため、当法人では育児・介護休業制度等の整備や、個別相談への対応を通じて職員が安心して就労を継続できる環境づくりを進めてきた。
これらの取り組みにより、介護と仕事の両立支援に対する不安軽減や雇用定着の促進につながったことが評価され、トモニン認定の取得に至ったものである。令和 8 年度においては、この取り組みを土台として、若者の採用および育成に積極的に取り組む法人として「ユースエール認定」の取得を目指していく。
この優良企業認定の取得は、職員の定着を支える取り組みとして効果が期待されるとともに、法人の信頼性向上や採用面でも強みにもつながり、安定した法人運営を下支えするものと考えられる。

２．事業内容

（数値は定員数、○は実施事業,()は昨年度定数）

	障害福祉事業									公益事業	
	生活介護	就労移行支援	就労継続支援B型	就労定着支援	放課後等デイサービス	短期入所	共同生活援助	居宅介護	特定相談支援	移動支援	日中一時支援
ふれあい福祉園ガイア	40					4					50
ふれあい作業所	60										70
ふれあいの杜まんなか	20				10	4					
ふれあい工房アルゴ		10	25	○							30
ふれあい支援センター								○		○	
ふれあいハウス							16				
WHJ相談支援センターメビア									○		
メビウス	50					0(4)					
プチメビ					10						
JJヒマワリ	40					3					
TSヒマワリ					10						
HNヒマワリ	20(30)										110
AWヒマワリ		10	30	○							
フレンズ	20										
ひまわりの家							20				
やまぼうしの郷							19				
すだちの丘							8				
合計	250	20	55	0	30	11	63	0	0	0	260

1. 短期入所事業の運営見直し（事業廃止）について

近年、労働関係法令の遵守が厳格化されていることに伴う愛知県からの指導により、通所施設において短期入所事業を併設・運営することが実務上困難となってきております。

この状況を受け、新型コロナウイルス感染症の影響により休止しておりました「メビウス」の短期入所事業（昨年度定員 4 名）につきましては、正式に廃止いたしました。

また、同様の理由に基づき、「ふれあいの杜まんなか」および「ふれあい福祉園ガイア」にて現在実施している短期入所事業につきましても、令和 8 年度（2026 年度）に向けて順次廃止していく計画です。今後は、既存事業のガバナンス強化と運営体制の最適化に注力してまいります。

2. 生活介護事業（HN ヒマワリ）の定員適正化について

「HN ヒマワリ」の生活介護事業につきましては、実態としての利用者数の減少傾向を踏まえ、定員を 30 名から 20 名へと見直しました。

実状に合わせた定員の適正化を図ることで運営効率が向上し、収益面において確実な改善効果が得られております。引き続き、各事業所の状況に応じた柔軟な体制整備と経営の立て直しを進めてまいります。

３．職員配置状況

（単位；人）

拠点	配置実数		常勤換算人数計（現場職員換算）	備考
	常勤	非常勤		
法人本部	4	0	0	
ふれあい福祉園ガイア	9	13	13.8	
ふれあい作業所	10	12	11	
ふれあいの杜まんなか	9.5	17	13.5	
ふれあい工房アルゴ	6	4	6.9	
ふれあい支援センター	21	23	15.1	
ふれあいハウス	4	14	5.4	兼務含む
WHJ相談支援センターメビア	6	1	6	
メビウス	16	32	25.3	
JJヒマワリ	9	9	9.3	
TSヒマワリ	5	4	3.7	
HNヒマワリ	4	11	4.8	
AWヒマワリ	6	14	10.6	
フレンズ	7	9	9.4	
ひまわりの家	2	15	5.3	
やまぼうしの郷	12	16	9.3	兼務含む
すだちの丘	5	8	4.6	兼務含む
合計	131.5	202	154	

４．令和６年度　資金収支計算書の事業活動による収入の状況

単位；千円

区分	前年度（令和6年度）		当年度（令和7年度）		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	率
	千円	%	千円	%	千円	%
就労支援収入	19,539	1.35%	22,710	1.57%	3,171	116.23%
障害福祉サービス等事業収入	1,349,757	93.04%	1,392,321	95.98%	42,564	103.15%
その他の事業収入	11,503	0.79%	12,936	0.89%	1,433	112.46%
借入金利息補助金収入	126	0.01%	156	0.01%	30	123.81%
経常経費寄附金収入	150	0.01%	160	0.01%	10	0.00%
受取利息配当金収入	357	0.02%	1,218	0.08%	861	341.18%
その他の収入	10,318	0.71%	21,190	1.46%	10,872	205.37%
事業活動収入計	1,391,751	100.00%	1,450,692	100.00%	58,941	104.24%

５．財産及び資金収支等の状況と推移

単位；千円

計算書・項目	令和6年度	令和7年度
資金収支計算書		
事業活動収入	1,391,752	1,450,692
事業活動資金収支差額	61,526	84,086
施設整備等資金収支差額	-153,204	-40,319
その他の活動資金収支差額	53,000	53,000
当期資金収支差額	-38,678	37,766
事業活動計算書		
サービス活動収益	1,380,949	1,428,127
サービス活動増減差額	-3,617	28,264
サービス活動外増減差額	9,010	20,658
特別増減差額	130	1,199
当期活動増減差額	5,522	50,123
財産の状況		
総資産	2,294,564	2,300,392
基本財産	1,035,389	998,525
純資産	1,813,523	1,845,072

1．収支状況の総括と事業活動の成果

当年度の決算は、前年度と比較して、大幅な収支改善しているように見えますが。賞与査定期間の補正によるマイナスがあったためです。

当法人の収益の柱である「障害福祉サービス等事業収入」は 1,392,321 千円（前年度比 42,564 千円増、

103.15%）と堅調に推移し、事業活動収入全体の 95.98%を占めて全体を牽引しています。
成果として、本業における収支差額を示す「サービス活動増減差額」が、前年度の赤字（△3,617 千円）から当年度は 28,264 千円のプラスへと黒字転換をしました。これにより最終的な「当期活動増減差額」も 50,123 千円となり、前年度（5,522 千円）から増益を達成するなど、経営体質の抜本的な強化が数値として示されています。

2. 資金収支（キャッシュフロー）の状況
資金繰りの面においても、非常に健全かつ安定した状態へと移行しています。
日々の事業活動から生み出されたキャッシュを示す「事業活動資金収支差額」は 84,086 千円となり、前年度から約 2,250 万円増加し、確かな資金創出力が確認できます。また、前年度に実施した施設整備（△153,204 千円　まんなか土地買収）が一巡し、当年度の施設整備等への支出が落ち着いたこと（△40,319 千円）も寄与し、「当期資金収支差額」は 37,766 千円のプラス（前年度は△38,678 千円）へと大きく改善しました。事業で得た資金を手元に確実に留保できる好循環なキャッシュフローが確立されています。

3. 財産・財務の状況および今後の展望
総資産は 2,300,392 千円と安定した規模を維持する一方、当期の良好な業績を反映して純資産残高は 1,845,072 千円へと着実に増加しました。減価償却等による基本財産の減少（998,525 千円）を補って余りある十分な自己資本が蓄積されています。
本決算における本業の黒字化と財務基盤の構築により、当法人の最優先課題であるグループホームの運営・拡充や、各施設における独自の支援プログラムの展開など、次期中期計画に向けた積極的な事業推進を裏付ける財務体制が整ってきていると評価されます。

６．施設設備整備及び資金調達の状況

（１）施設設備の整備状況
当年度実施した主な（100 万円以上）施設整備等の整備状況は次のとおりです。
・ふれあいハウススピカ特殊浴槽　4,785,000 円
・メビウス車両（キャラバンチェアキャブ）4,330,000 円
・ふれあい福祉園ガイア LED 照明交換　2,607,000 円

（２）借入金の状況
当年度末における借入金の状況は次のとおりです。

借入金の状況					単位；円
施設名	借入先 融資年度（西暦）	当初借入額	当年度償還額	当年度残高	備考（目的）
メビウス	福祉医療機構 2012	26,900,000	1,526,406	8,307,000	施設建設
やまぼうしの郷（ダイナ）	福祉医療機構 2009	37,600,000	2,093,080	5,910,000	施設建設
やまぼうしの郷（レオ）	福祉医療機構 2010	25,500,000	1,447,200	5,360,000	施設建設
やまぼうしの郷（ティガ）	福祉医療機構 2010	18,700,000	1,095,920	3,090,000	施設建設
ふれあいハウス（スピカ）	福祉医療機構 2011	20,000,000	1,194,398	5,428,000	施設建設
まんなか	福祉医療機構 2014	38,000,000	2,268,738	16,625,000	施設建設
JJヒマワリ	福祉医療機構 2015	100,000,000	5,856,370	48,760,000	施設建設
すだちの丘	福祉医療機構 2018	35,600,000	1,936,155	21,593,000	施設建設
AWひまわり	福祉医療機構 2020	77,000,000	4,031,664	55,556,000	施設購入
アルゴ	福祉医療機構 2021	18,000,000	960,776	14,288,000	施設購入
まんなか	福祉医療機構 2024	34,400,000	1,815,151	33,142,000	土地購入
合計		431,700,000	24,225,858	218,059,000	

７．対処すべき課題

（１）収益構造の抜本的な改善と事業所間格差の解消

利益率のマイナスが続く事業所の立て直しは、法人全体の経営安定化における最優先事項です。

「生活介護×グループホーム」のパッケージ化：報告にある通り、強度行動障害や重度心身障害への特化を進め、住まいの支援（GH）と日中活動をセットで提案することで、利用者の定着と高単価な報酬区分への移行を確実に遂行する。

営業スパンの短縮と連携強化：特別支援学校卒業生の獲得（3 年サイクル）に依存せず、医療機関や相談支援事業所との連携を強め、中途退院者や他施設からの転所ニーズを機動的に取り込む。

動的な人員配置の検討： 稼働率に応じた柔軟なスタッフ配置や、事業所間での職員ローテーション制度を検討し、固定費（人件費）が収益を圧迫する構造を緩和する。

（２）外国人職員（特定技能）の育成と定着支援の高度化

特定技能人材が「現場の戦力」から「法人のコアメンバー」へとステップアップするための施策が求められます。

日本語コミュニケーションの体系化： 業務記録や指示伝達のミスを防ぐため、IT ツールの活用（翻訳・音声入力等）や、福祉専門用語に特化した日本語学習プログラムの定着。

キャリアパスの提示：単なる労働力の補填ではなく、介護福祉士資格の取得支援など、中長期的に日本で活

躍し続けられるキャリアモデルを構築する。

（3）地域貢献活動の「成果」の最大化と仕組み化
アール・ブリュットや学生との連携など、優れた活動を単発のイベントで終わらせない仕組み作りが必要です。

経済活動としての自立：アート活動における「作家への収益還元」をさらに拡大し、就労継続支援 B 型等の工賃向上にも寄与するビジネスモデルへと昇華させる。

地域共生拠点としての発信：乙川中学校や日本福祉大学との連携を「教育機会の提供」に留めず、将来的な採用（ユースエール認定への布石）や、地域住民への法人認知度向上に繋げる。

（4）職員・利用者の「健康経営」と「両立支援」の推進
「トモニン」取得を起点とした、より選ばれる職場づくりが課題となります。

ユースエール認定の取得と若手確保： 令和 8 年度目標に向けた残業時間の管理、有給休暇取得率の向上を徹底し、若年層への訴求力を高める。

利用者向け健康支援の質的転換：運動プログラムに加え、課題として挙げられた「栄養管理」や「口腔ケア」などを統合したヘルスケア支援体制を構築し、重度化防止と QOL 向上を図る。

（5）リスクマネジメント（きょうだい児・家族支援）
包括的な家族支援：NHK でも取り上げられた「きょうだい会」の活動を、法人の付加価値として定着させる。利用者の親の高齢化（8050 問題）や、きょうだい児が抱える将来不安に対し、福祉サービス以外の相談・支援機能を強化する。

Ⅲ．法人の役員に関する事項

１．評議員

（1）評議員

役職名	氏名	重要な兼職の状況	
評議員	後藤　章次		
評議員	山本　祥嗣	税理士法人ヴェンティ代表	
評議員	鈴木　重幸		
評議員	鷲野　林平	社会福祉法人半田同胞園　施設長	
評議員	古川　裕隆	碧南市社会福祉協議会相談支援事業所管理者	
評議員	杉浦　有美	ほっとまんまピアサポーター	
評議員	黒木　修	社会福祉法人くるみ会　理事	

注；任期は令和7年6月19日から令和11年度定時評議員会終結時までです

（2）評議員会の開催状況

	開催日	議題
令和７年度第１回評議員会	2025/6/19	議案第１号　令和６年度事業報告について 議案第２号　令和６年度決算について 議案第３号　次期役員選任について
令和７年度第２回評議員会	2025/12/12	議案第１号　第一次補正予算案について
令和７年度第３回評議員会	2026/3/27	議案第１号　法人第２次補正予算（案）の承認について 議案第２号　令和８年度法人事業計画（案）の承認について 議案第３号　令和８年度法人予算（案）について

２．理事

役職名	氏名	
理事長	竹内　涼	
理事	坂　敬裕	
理事	杉浦　厚子	
理事	雲出　佑	ふれあい工房アルゴ管理者
理事	立石　佳輝	
理事	飯野　恭央	社会福祉法人ぬくもり福祉会　ぬくもりの家施設長
注；任期は令和7年6月19日から令和9年度定時評議員会終結時までです		

（２）理事会の開催状況

	開催日	議題
令和７年度第１回理事会	2025/5/30	議案第１号　令和６年度事業報告について 議案第２号　令和６年度決算について 議案第３号　次期理事候補者案について 議案第４号　次期評議員候補者案について 議案第５号　次期評議員選任・解任委員選任について 議案第６号　ふれあいハウススピカ特殊浴槽購入について
令和７年度第２回理事会	2025/6/19	議案第１号　理事長選任について
令和７年度第３回理事会	2025/9/26	議案第１号　ふれあい福祉園ガイア LED 照明交換工事について 議案第２号　メビウス車両（キャラバンチェアキャブ）購入について 議案第３号　AW ひまわり・ふれあい工房アルゴ・JJ ヒマワリ運営規程変更について 議案第４号　正職員・準職員就業規則一部変更について 議案第５号　育児休業規程一部変更について
令和７年度第４回理事会	2025/11/28	議案第１号　第一次補正予算案について
令和７年度第５回理事会	2026/3/19	議案第１号　法人第２次補正予算（案）の承認について 議案第２号　令和８年度法人事業計画（案）の承認について

		議案第３号 令和８年度法人予算（案）について 議案第４号 メビウス短期入所事業の廃業について 議案第５号 運営規程の一部改正について 議案第６号 正職員就業規則・準職員就業規則の一部改正について 議案第７号 慶弔規定の一部改正について 議案第８号 特定個人情報保護規程の一部改正について（削除） 議案第９号 人事労務管理システム「SmartHR」の契約更新について 議案第１０号 給与計算システム「マネーフォワードクラウド」の契約更新について 議案第１１号 第３回評議員会の招集について

３．監事

（１）監事

役職名	氏名		
監事	多々良　祐司		
監事	藤牧　実		
監事	大竹　正和		
注；任期は令和7年6月19日から令和9年度定時評議員会終結時までです			

（２）監事監査等の実施状況

令和７年５月１３日　監事監査

令和７年６月１３日　やまぼうしの郷　すだちの丘　運営指導

令和８年１月２０日　法人指導監査

令和８年３月６日　AW ヒマワリ　TS ヒマワリ　運営指導

Ⅳ．地域福祉及び公益的取組

半田・名古屋地区

・半田中学校区多職種連携、半田ひまわりの会　SuSaT・子ども食堂おむすび

・アール・ブリュット展・みんなの南吉展・福祉事業所見学フェア・乙川地区の福祉フェア

・フリースペース事業・エコキャップ活動

碧南地区

・へきなん SDGｓ・ヨガ講座・どんぐり銀行・ガイアマルシェ

法人

・きょうだい会・ウェルフェアワークス

令和７年度　　メビウス・プチメビ事業報告書

Ⅰ．施設概要　利用実績

施設種別	生活介護	短期入所	放課後等デイサービス
事業所番号	２３１８２００２０７	２３１８２００２０７	２３５８２０００９１
所在地	愛知県半田市椎ノ木町一丁目８番の１		
事業開始日	平成１０年７月１日	平成１０年７月１日	平成２２年４月１日
障害種別	指定なし		
定員	５０名	３名	１０名
開所日/時間	月曜日～金曜日 ９:００～１６:００		月曜日～金曜日 １４：３０～１７：３０ 長期休暇等 １０：００～１６：００

A. 登録市町村

◎生活介護

半田市、知多市、常滑市、東海市、高浜市、碧南市、武豊町、東浦町、阿久比町

◎放課後等デイサービス

半田市、知多市、武豊町、東浦町、美浜町

B. 利用実績

	生活介護	短期入所	放課後等デイサービス	事業活動収入計 職員数合計
利用定員	50人	人	10人	
利用者延数	10422人	人	2281人	
１日平均利用者数	42人	人	10人	
稼働率、稼働指数	83.4%	0.0%	95.0%	
稼働日数	250日	日	240日	
単価（一人一日当たり）	14,776	0	12,378	
介護給付費等収入	153,992,998	0	28,234,557	182,227,555
職員数（常勤換算）	21.42		3.86	25.28

Ⅱ．事業計画・目標の達成状況

A.　運営目標・理念

『メビウス理念』

互いを大切に、尊重し合い、慈しみ合い、支え合い、人として人間らしく、共に生きていけることを目指します。

《生活介護》

・作業や日中活動、イベント等で張りのある生活が送れるよう心掛けた。

・課題だった地域交流については、ベルマーク活動を始め年度末に市内の小学校とのつながりを持つことができた。

・全体行事についても、目標通り２ヶ月に１回のペースで利用者が参加でき、楽しめる企画を行うことがで

きた。職員も高い意識を持って企画に取り組んでいる。年に１回行っている祭も、メビ MONOGATARI と名称も変え親しみやすく実施し、例年以上に一般の来場者が増え成功裏に終了した。

《短期入所》

生活介護事業所での短期入所事業の限界があり、令和６年７月より休止し、令和７年度末に廃止。

『プチメビ理念』

子どもたちの個性・特性にあった支援を通して、未来の可能性を広げ社会に順応できるよう生きる力を育みます。

《放課後等デイサービス》

・令和６年度から引き続き５領域と関連した活動を提供できるよう、年齢や障害種別、特性によって活動を分け、５名以下の小集団にすることで個人に対する支援の質を上げることができた。
・６名の新規利用者を受け入れ、毎日の１０名の定員枠を満たすことができた。
・インフルエンザ蔓延以外は安定した利用率となり、年間を通して利用率９５％を維持できた。
・地域の児童クラブとつながりを持ち、年３回の交流会を持つことができた。

B.　事業計画

《生活介護》定員５０名

① 充実した毎日を提供する

・全体行事はお花見会、バーベキュー、七夕会、ドラムサークル、年忘れ会、節分等2ヶ月に１回以上実施する事ができ事業所一体的に交流することができた。

・月１回の各班企画のレクリエーションや外出は班合同で行うなど工夫しながら概ね実施することができた。

② 地域とともに活動する機会を作る

・１１月にメビウス祭の名称を変えたメビ MONOGATARI を開催した。キッチンカーやワークショップ、子ども向けの遊び等を行い、地域交流を深めることができた。例年以上の盛り上がりがあり、来客者数は３００名を超えた。また日本福祉大学の学生にボランティアに来てもらうことで繋がりを作ることもでき、来客層にも変化をもたらすことができた。

③ 健やかに生きるための取り組みをする

1) 毎日の健康チェックと生活動線の有効活用、週１回以上の散歩等による機能訓練を実施していく。

・毎日の健康チェックは看護師を中心に実施できた。

・加齢に伴い体力低下や体重増加等により軽微な運動も適度に行うよう配慮が必要になってきた。

2) 板山公民館を利用してのメビフィットネスは計画したが当日の職員配置が急遽変わったりすることがあり、月１回行えないこともあった。ただ毎日東館と西館で時間を決めて行うことはできており、職員全体に健康増進の意識を持ってもらうことには繋がっている。

④ 支える力を強化する

事業所外研修ではサービス管理責任者実践研修を２名が受講した。事業所内勉強会は「支援向上のための疑似体験」「感染症予防研修」「林医院によるアレルギー講座」を実施。また今年度で５回目の南海トラフ大地震を想定しての避難訓練と引き渡し訓練を実施した。

⑤ 安定した運営を目指す

1) ひいらぎ特別支援学校の卒業生２名の獲得ができた。年度途中の新規利用も３名獲得。ただ、障がいの重度化（死亡含む）や他市のグループホームへの入居があり、年間に５名の退所があった。

2) 安定した運営を目指すため、人員配置を１．５：１の加算が取れるように人員を増やして利用者支援が手厚くなるように対応した。

《短期入所》定員３名

・令和７年度、愛知県に短期入所廃止届を提出。

《放課後等デイサービス》定員１０名

① 未来に繋がる支援を提供する

・６名の新規受入れの対応を行い、またモニタリングを定期に行うことができた。

・特性を活かし音楽療法を月に１２回行うことができた。

・MEPA-R ムーブメント教育・療育プログラムのモニタリング会議を行い、１年の成長を発達の領域ごとに数値化し、次年度の個別支援計画に具体的なイメージを描いて反映することができた。

・保護者とのモニタリング面談を対面で行い、成長の状況を説明し共有することができた。

・特別なイベントは一体的に活動し、将来就労を目指す児童には、作業活動や生活スキルを高める活動を行い、身体障害や発達障害のある児童には、体験活動や感覚統合のカリキュラムで成長を促す活動をすることができた。

② 支える力を強化する

職員研修年１回以上、事業所内研修年３回実施した。

・外部研修を含み職員全員が、障害特性(強度行動障害等)・サビ管研修等を受けることが出来ている。

・事業所内勉強会はメビウスと一緒に年２回行うことができた。

③ 安定した運営を目指す

・毎日１０名から１１名の定員枠を満たすことができた。

・１１月と２月にインフルエンザ蔓延により利用率が若干減ったが、一年を通して９５％の利用率を維持することができた。

C.　研修計画

メビウス・プチメビが求める職員像

利用者・ご家族・職員・地域に寄り添う事業所を自分で考え、共有し、作っていけるような職員。

《一般職員》

一人ひとりの利用者に寄り添い理解を深め笑顔を引き出せる、福祉の職業人として専門性を高め、利用者と共に活き活きと活躍できる職員になる。

・「初任者職員向け研修」半田市自立支援協議会
・「中堅職員向け研修」半田市自立支援協議会
・サービス管理責任者・児童発達支援責任者研修（実践研修）
・喀痰吸引等研修（第三号研修）
・法人全体研修
・メビウス第１回勉強会「支援向上のための疑似体験」
・メビウス第２回勉強会「感染症予防研修」
・メビウス第３回勉強会・「林医院によるアレルギー講座」

《リーダー職員》

公平公正な判断を兼ね備えチームを取りまとめることができ、謙虚さと寛大な心で周囲から信頼され期待に応えられる職員になる。

・苦情解決責任者研修
・事例検討会
・志賀道場

Ⅲ．対処すべき課題

《生活介護》

① 地域と共に活動する機会、地域の活動にも積極的に参加していく。
・メビウスだけの祭にするのか、ダブルエッチジェー半田地区の祭にするのかを検討している。
・ダブルエッチジェーの職員として法人を意識した活動として地区の祭に参加する。
・フードドライブの協力事業所として、月に２回食品回収を定着していく。

② 充実した毎日を提供
・事業所全体でのイベントや折り目節目の行事などを２ヶ月に１回企画提供する。
・各班企画の目的を持った外出や創作活動レクリエーション等を毎月行う。
・重度の障害をお持ちでも活躍できる環境を作っていく。

③ 健やかに生きるための取り組み
・健康維持増進を目的とした「メビフィットネス」を継続していく。
・嚥下状態や体調の変化等を見逃さないために、グループホームや職員全体で情報共有して早期対応する。

④ 支える力を強化
・外部研修の機会を逃さず、職員の専門性を高める研修（一人年１回以上）に参加する。
・虐待防止を意識した直接支援に関わる勉強会等（年３回）を行い、意見交換の場を設けながら、職員の質の向上と、利用者へのサービスの向上を実現していく。
・非常災害時避難訓練と引き渡し訓練を継続し、より意識・精度を高めていく。

⑤ 安定した運営
・平均利用人数を定員５０名（令和７年度月平均４１．７名）に近づけられるよう相談支援事業所や特別支援学校に働きかけ、特に特別支援学校からの実習生の受入れは積極的に受け入れ利用に向けての機会を逃さないようにし利用率を上げていく。
・家庭環境や家族依存等により利用日が減少傾向にある利用者へのアプローチ・支援方法を見直し利用率を上げていく。

《短期入所》

① 廃止

《放課後等デイサービス》

① 未来に繋がる支援を提供する
・５領域「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」との繋がりを明確にした様々なプログラムを通して、一人ひとりの個性・特性を把握しながら成長に働きかけていく。
・放課後児童クラブと交流会を年２回開催していく。
・モニタリングを通常年２回と MEPA-R 会議を年１回行い、５領域において成長と課題を確認し、次への効果的なアプローチの検討を行い個別支援計画に反映させていく。
・本人・ご家族の困り事、生きづらさ等を随時必要に応じて学校、家庭、その他関係機関と情報を共有し連携しながら、解決していく。
・健康を意識して、毎日の活動前に身体を大きく動かせる音楽で「タオル体操」を行っていく。

② 支える力の強化
・職員の専門性と資質を高めるための研修を一人年１回以上、特に半田市で行われる研修会には常勤非常勤問わず参加していく。
・事業所内の勉強会を年３回全員参加で実施して、障がいのある児童一人ひとりを尊重し、直接支援を向上させていく。

③ 安定した運営
・プチメビの強みを示し他事業所との差別化を図り利用者確保に繋げていく。
・来年度卒業生の次年度枠を意識して、相談支援事業所等関係機関に働きかけ、定員１０名を各曜日確保できるようにしていく。

Ⅳ．利用者の状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和7年度	令和6年度
生活介護	延べ人数	936	909	887	956	773	895	996	789	822	805	759	895	10422	10656
	一日平均	42.5	43.3	42.2	41.6	40.7	42.6	43.3	41.5	41.1	40.3	39.9	40.7	41.7	42.8
	営業日数	22	21	21	23	19	21	23	19	20	20	19	22	250	249
	利用率	85.1%	86.6%	84.5%	83.1%	81.4%	85.2%	86.6%	83.1%	82.2%	80.5%	79.9%	81.4%	83.4%	85.6%
短期入所	延べ人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35
	一日平均	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9
	営業日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	利用率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	97.2%
放課後等デイサービス	延べ人数	203	196	205	203	166	193	212	153	200	186	165	199	2281	2129
	一日平均	9.7	9.8	9.8	9.2	9.2	9.7	9.6	8.5	10.0	9.8	9.2	9.5	9.5	8.8
	営業日数	21	20	21	22	18	20	22	18	20	19	18	21	240	241
	利用率	96.7%	98.0%	97.6%	92.3%	92.2%	96.5%	96.4%	85.0%	100.0%	97.9%	91.7%	94.8%	95.0%	88.3%

Ⅴ．職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1		1									
サービス管理責任者	1		1									
生活支援員	10	23	5	1	5	22		3		1		2
看護師		3				3				1		-1
理学療法士		1				1						
医師		1		1								
児童発達支援管理責任者	1		1									
児童指導員	2	2			2	2			1		-1	
保育士	1				1							
指導員		2				2		1				1
合計	16	32	8	2	8	30	0	4	1	2	-1	2

令和７年度　　ふれあい福祉園ガイア事業報告書

Ⅰ．施設概要　利用実績

施設種別	生活介護・短期入所・日中一時
事業所番号	２３１３２０００１２
所在地	愛知県碧南市中山町１－７
事業開始日	平成１６年７月１日
障害種別	指定なし
定員	生活介護　４０名　　短期入所　４名　　日中一時　６０名
開所日/時間	月曜日～金曜日　９：００～１６：００

A. 登録市町村 碧南市、西尾市、高浜市、刈谷市、半田市、知立市、安城市、武豊町

B. 利用実績

	生活介護	短期入所	日中一時	事業活動収入計 職員数合計
利用定員	40人	4人	60人	
利用者延数	9491人	283人	523人	
１日平均利用者数	38人	3人	4人	
稼働率、稼働指数	95.7%	76.1%	6.2%	
稼働日数	248日	93日	140日	
単価（一人一日当たり）	10,486	20,090	5,144	
介護給付費等収入	99,520,563	5,685,414	2,690,288	107,896,265
職員数（常勤換算）	12.4	1.4		13.8

Ⅱ．事業計画・目標の達成状況

A.　運営目標・理念

・「地域とともに」という理念を掲げ、事業所や利用者を地域とつなぐ役割を担っていく。

⇒恒例となった中山地区「中山福祉の会」の玉ねぎとさつまいも作りを引き続き参加し、ガイア裏での畑管理の際に水の提供やトイレの貸し出しを行った。

また、大道芸を得意とする利用者様が「さぽーと」に掲載されたこともあり、大道芸コンビ「イブとピクトと時々オラン」の活躍が目覚ましい１年であった。この活動を通じ碧南市はもちろん近隣市町村で活躍の場をつくることができた。

⇒お菓子班の販売は材料費・光熱費の高騰で販売価格を値上げしたが、販売数は大きく落ちることはなく、引き続き安定した販売を行えた。インスタグラムを活用した情報発信により来所されるお客様も増え、地域包括センターでの定期販売を通じて、地域とのつながりを深めることができた。

⇒SDGS クラブのクリーン活動では、地域のゴミ拾いを行うとともに、散歩を兼ねた活動とすることで、地域貢献と利用者様の健康づくりの両立を図れた。利用者様が楽しみにしながら参加でき、継続的な健康維持にもつながる取り組みとなっている。

B.　事業計画

【生活介護(定員４０名)】

① 地域に根付いた活動をしていく

・「中山福祉の会」の活動の一環で、サツマイモ掘りと玉ねぎの苗植えに参加した。

・お菓子の原材料や光熱費の高騰に合わせ販売価格を 1 袋 150 円に値上げをしたが、企業様やイベントでの販売は令和 7 年度も好調だった。年度末には新たな委託販売先が 1 件増えた。
新たな取り組みとして、放課後等デイサービスの利用者様の買い物体験の場として利用していただいた。

・自主製品販売は大浜上区民館にて展示販売を行ったが、前年度ほどの収益は得られなかった。

・「わらふぇす」、8 月と 12 月にキッチンカーでお菓子販売イベントを開催し地域の方にも来ていただいた。

・利用者の大道芸を披露する場は前年度を上回った。

② 新規利用者３名増を目指す。
令和７年度の新規利用者２名。中途利用者３名契約をすることができた。

③ 強度行動障害の知識を身に着け、中身のある支援を行っていく。
正規職員全員、強度行動障害基礎研修を終えた。今後は実践研修取得を進めていく。

④ 職員事業所内研修の継続
利用者の気持ちになる実践研修を引き続き継続。自ら体験することにより支援向上に対する意識を高めていく。
また、「親の気持ちを知る研修」として、２名の利用者様のお母様に来所していただき、出生から現在に至るまでの歩みや、子育ての中での苦労、将来への思いを直接伺う機会を設けた。この研修では、親亡き後の利用者様の人生を見据え、どのような支援が本人にとって、安心・安定につながるのかを考えるための重要な学びの機会になった。

⑤ 特定技能職員の育成
令和７年度より、「療護班」に配属し、担当利用者も持つ体制を整えた。担当をもつことで利用者一人ひとりの特性を継続的に把握する意識が高まり、支援に対する責任感や主体性の向上につながっている。
今後も引き続き業務を通じ、支援力の向上や介護福祉士資格取得を目指して研鑽を積んでいく。

⑥ 「運動プログラム」を継続する
「１時間程度の散歩を週に１度行う」プログラムから作業後に「毎日音楽に合わせて歩行する」プログラムに変更した。このプログラムに変更してから参加者が増えている。

【短期入所(定員４名)】

・定員４名だが、緊急時のために１名の空きを用意しておくことで、急な対応もできた。
労働基準法の改正や制度の見直しで今まで通りの運営が難しくなっている。令和８年度をもって短期入所廃止予定。

【日中一時(定員 60 名)】

・今年度も土曜日はガイア利用者のみの利用限定で開催。報酬単価が低い事業であるため、収支のバランスに配慮した運営を行ってきた。
また児童の放課後の受け入れも引き続き行っている。安城特別支援学校の生徒の受け入れができないか問い合わせをいただくが、送迎が難しいため契約にはつながっていない。

【施設整備、修繕】

⇒令和６年度に購入予定だったレジアスは納期の関係で令和７年度に納車となった。
LED 照明交換工事は令和 7 年 12 月に行った。
当初の予定にはなかったが、ふすまが経年劣化による破損や痛みが目立つようになってきており

利用者や来所者にとって落ち着かない印象を与えていたため補修をおこなった。

C.　研修計画

・一般職員

経験年数の浅い若手職員を中心に、基礎的な支援力の向上と福祉職員としての意識作りを目的とした研修を実施した。日常支援を振り返りながら、利用者一人一人の気持ちや背景を理解する機会を設けることで、支援の根拠や関わり方について理解を深めることができた。

また、外部研修への参加を通じて専門的知識を学び、現場での実践に繋げる意識向上を図ることができた。

⇒【外部】: 強度行動障害基礎研修・実践研修、接遇研修、食品衛生講習会、虐待研修、
権利擁護セミナー、ビジネスマナー研修
PECS 研修、3 事業所合同研修

【内部】: 利用者の気持ちを知る研修、親の気持ちを知る研修、法人全体研修

・主任以上

人を育成やチームのとりまとめができ、自分で考えられる職員を目指す

⇒【外部】: サービス管理責任者更新研修　高齢知的障害者への支援に関する研修

【内部】: 志賀セミナー

Ⅲ. 対処すべき課題

・利用者目線の支援をチームとして行えるようにしていく

⇒事業所内研修では、「利用者の気持ちになる実践講習」や「親の気持ちを知る研修」を行う。

外部研修にも積極的に参加し、他法人職員との交流を図り、仕事への意識を高めていく。

一人一人の特性に合わせた支援が必要であるため、職員間で情報共有をして積極的に意見交換を行う。

・地域に根付いた活動をする

⇒お菓子の販売に関して、知名度は徐々に上がっている。キッチンカーを活用したお菓子の販売を行い、さらにガイアのお菓子を地域に定着していく。

SDGs の一環でクリーン活動クラブを立ち上げたので引き続きお世話になっている地域の清掃をしていく。

地域で暮らすことを意識し、公共交通機関の利用や生活力向上のための支援を行っていく。

・健康維持・管理

⇒利用者、職員共に健康維持・増進を意識していく。班別プログラム時間内に設けた室内歩行を毎日続けることにより、身体を動かす楽しさを知ってもらう。歩くことはどのような年齢層にも筋力維持につながるので、無理なく続けていく。

・新規利用者獲得

⇒令和 7 年度は新卒利用者 2 名獲得。そのほかにグループホームに入所されている方 2 名と高浜市に居住している引きこもりだった女性を契約した。今後も引き続き、近隣の特別支援学校や放課後等デイサービス等と連携を図り利用者獲得を目指す。

新規利用者の獲得に向けた取り組みを継続しているが、送迎を希望される方が多く、現在保有している送迎車両が定員いっぱいの状況となっている。その為、利用希望があっても送迎対応が困難となり、契約につながらないケースが生じる可能性がある。今後は安全面に十分配慮しつつ、送迎体制の見直しや整備について検討していく必要がある。

・施設整備・修繕

⇒固定資産購入：リフト付きのレジアスは令和７年度の納車となった。車椅子の利用者様が増えてきており福祉車両が２台では足りない状況になっている。
蛍光灯の販売中止の為 LED 交換工事を実施。
修繕：開所以来使用している設備や備品の老朽化が進んでいる。利用者や来所者が安心して過ごせる環境を維持するため、優先順位を考慮しながら計画的な修繕・更新を行っていく必要がある。

Ⅳ．利用者の状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和7年度	令和6年度
生活介護	延べ人数	810	747	793	842	699	825	847	774	790	804	747	813	9491	9255
	一日平均	36.8	37.4	37.8	38.3	36.8	39.3	38.5	38.7	39.5	40.2	37.4	38.7	38.3	37.9
	営業日数	22	20	21	22	19	21	22	20	20	20	20	21	248	244
	利用率	92.0%	93.4%	94.4%	95.7%	92.0%	98.2%	96.3%	96.8%	98.8%	100.5%	93.4%	96.8%	95.7%	94.8%
短期入所	延べ人数	23	24	19	32	17	25	24	28	21	24	20	26	283	318
	一日平均	3.8	3.4	3.2	2.9	3.4	2.5	3.0	2.8	3.0	3.0	2.9	3.3	3.0	3.1
	営業日数	6	7	6	11	5	10	8	10	7	8	7	8	93	103
	利用率	95.8%	85.7%	79.2%	72.7%	85.0%	62.5%	75.0%	70.0%	75.0%	75.0%	71.4%	81.3%	76.1%	77.2%
日中一時（成人）	延べ人数	28	29	43	25	31	28	27	4	32	27	27	28	329	442
	営業日数	4	5	8	5	6	6	4	3	4	4	4	4	57	74
日中一時（児童）	延べ人数	14	14	11	23	33	15	14	14	13	11	13	19	194	196
	営業日数	5	6	4	10	10	6	9	6	5	6	6	10	83	88

Ⅴ．職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1				1							
サービス管理責任者	1		1									
生活支援員	7	8	2	2	5	6		3				3
看護師		2				2						
調理員		3				3				1		-1
合計	9	13	3	2	6	11	0	3	0	1	0	2

令和７年度　　フレンズ事業報告書

Ⅰ．施設概要　利用実績

施設種別	生活介護
事業所番号	２０１７３００６０２
所在地	主たる事業所：愛知県名古屋市北区清水４丁目２－２１ 従たる事業所：愛知県名古屋市北区清水２丁目２－９
事業開始日	平成１２年４月１日
障害種別	身体障がい者・知的障がい者
定員	２０名（主１３名、従７名）
開所日/時間	月曜日～金曜日　　９：００～１６：３０

A. 登録市町村　名古屋市

B. 利用実績

	生活介護(主従合算)
利用定員	20人
利用者延数	3294人
１日平均利用者数	13人
稼働率、稼働指数	65.4%
稼働日数	252日
単価（一人一日当たり）	19,605
介護給付費等収入	64,577,497
職員数（常勤換算）	9.4

Ⅱ．事業計画・目標の達成状況

A.　運営目標・理念

「一人一人の明日に繋がる支援を！！」

利用者一人ひとりの自己決定権の尊重と尊厳の確保を基盤とし、個別支援のニーズに応じたサービス提供に努めた。特に重度重複障害を持つ利用者が日中活動の拠点として安心して過ごせるよう健康状態の維持や心理的サポートを含む包括的な支援を実践した。また、今年度より新たに加わった従たる事業所との連携を深め、相互にフォローし合える体制構築の足掛かりを築いた。

B.　事業計画

生活介護　（定員２０名）

計画：①従たる事業所の運営

4月に開所した従たる事業所において当初は旧来の環境を維持しつつ、段階的にフレンズの運営方針への適応を図った。当初は事業所間での交流が少なかったものの合同行事等を通じて徐々に職員、利用者間の親睦が深まり現在は互いに協力し合える安定した運営体制が整いつつある。

計画：②利用者増への取り組み

従たる事業所の開所に伴い 4 月に 6 名の新規利用者を迎えたが、主たる事業所では 2 名の入所施設への転居に伴う欠員が発生してしまった。相談支援事業所、グループホーム等を通じた情報収集は継続しているものの新規獲得には至っておらず、次年度に向けた積極的な広報が課題として残った。

計画：③一体的なＩＴ業務、環境の整備

主たる事業所での IT 化は以前より取り組んでいたため進展しているものの、アナログ主体の環境であった従たる事業所との格差をなかなか埋めることが出来ず格差が顕在化している。８年度は業務効率化に向けた「介舟」のシステム導入を予定していて、システムの一本化を通じて事務作業の負担の軽減を図るとともに、研修等を通じて事業所間の格差を解消し、全職員が円滑に情報を共有できる基盤作りを進めていく。

計画：④利用者、職員の健康管理・維持

夏季、および冬季の感染症流行期においても 1 年を通じて大規模な感染症の蔓延を防ぎ、安定した出席率を維持してきた。また、目に見えない体調変化を捉えるための注意深い観察の重要性を再認識し嘱託医と連携した予防体制の強化を図った。

計画：⑤地域連携・社会貢献

移転統合に向けて、従たる事業所においても自治会や地域コミュニティへの加入を通じて施設認知度の向上に努めた。また、社会貢献活動として従来からのエコキャップ運動を継続してきたが移転後も活動は継続していき今後は移転後の地域も含めて活動の幅を広げていきたい。

計画：⑥災害対策

BCP を最新の様式に刷新し、自然災害等への対応方法をより明確にして災害予防に努めた。定期的な避難訓練に加え、シェイクアウト訓練や災害時情報共有システムへの登録を実施しながら、職員一人ひとりの防災意識向上と共に有事の際の行動指針の定着を図ってきたが、パート職員も含めた周知や定着においては課題となることも多く、今後は分かりやすい形での定着が課題となってきている。

計画：⑦主たる事業所の移転準備

令和８年度の移転統合に向けて１年間を通じて準備を進めてきた。広くなった面積を有効活用できるように効率の良い部屋割りを考えたり、車椅子対応トイレへの改修や入浴用リフトの設置と利用者が新しい環境でも不自由なく活動できるように配慮し、ハード面の整備と並行して移転後の新しい生活リズムにスムーズに移行するための支援体制の構築にも力を入れてきた。

C.　研修計画

フレンズが求める職員像

「一人一人が倫理観と責任をもって、常に創造的な発想で職務を全うできる職員」

各職員が高い倫理観と責任感を持つことで事業所全体の安全と安定をもたらすと共に、業務に関しては常に新しい発想で物事を考え実行できる職員を目指していく。

法人内研修

・階層別研修（新人）→新人研修に参加

・法人全体研修→非常勤職員も含めて 7 割程度参加

・虐待防止、権利擁護研修→ＷＥＢ動画形式で参加
・強行勉強会→担当職員各回参加

外部研修
感染症対策研修、防災研修、強行研修、接遇研修、介護技術向上研修、高齢障害福祉研修、個別支援研修
メンタルヘルス研修、ハラスメント研修、身体拘束研修

事業所全体
重症心身障害児と共に生きる家族（WEB 研修）、虐待防止研修、BCP 研修、感染症研修

事業所内研修
各種外部研修伝達研修

令和 7 年度は従たる事業所の開所により２つに分かれてしまったことで、合同の研修機会を設けていくことも困難ではあったが、それぞれの施設において出来るだけ同じ内容の研修を行うことを心掛けた。毎年行われる法人全体研修では例年、非常勤職員の参加は少なかったが令和 7 年度においては非常勤職員の参加もあり参加者の仕事意欲の向上がみられた。また各個人がそれぞれ受けてきた外部研修を事業所内にて伝達研修を行うことで、個人の学びを組織全体で共有し、専門知識の定着と支援技術の向上を図ることで、事業所全体の支援力の底上げに繋がった。

.

Ⅲ．対処すべき課題

令和 7 年度は従たる事業所の円滑な立ち上げに注力し、一定の成果を得た。しかし、IT 環境の事業所間格差や、主たる事業所での利用者減といった課題も浮き彫りとなった。令和 8 年度は主たる事業所の移転、統合という大きな転換期を迎えるにあたり、以下の課題を中心に取り組んでいく。

・環境変化に伴う心理的ケア
拠点統合による生活環境の変化は、利用者にとって大きなストレスとなり得る。1 年を通じて行ってきた交流を土台に、新年度も既存の職員による丁寧な支援を継続し不安を最小限に抑えられるよう寄り添った支援を徹底していく。
・IT 環境の統合と効率化
「介舟」の導入によるシステム一本化を機に重複する事務作業の削減と転記ミス防止を徹底する。これにより捻出した時間を直接支援の時間へと転換し事業所間の情報格差を解消することで組織全体の支援力底上げを図っていく。
・複合的な強みを活かした広報と利用者獲得
フレンズが元々持つ「重度障害者への高い支援力」と従たる事業所が培った「軽作業・創作活動」のノウハウを融合させる。この幅広い対応力を基盤として相談支援事業所や特別支援学校へのアピールを強化し、新規利用者の安定的な獲得を目指す。
・新地域における共生の構築
移転先の地域社会においてもエコキャップ運動等を継続し新たな地域にて良好な近隣関係を築けるように努めていく。地域に開かれ信頼される施設として早期に定着できるよう積極的な地域貢献を模索していく。

Ⅳ．利用者の状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和7年度	令和6年度
生活介護	延べ人数	293	272	288	300	239	286	308	248	257	260	262	281	3294	2363
	一日平均	13.3	13.6	13.7	13.0	12.6	13.0	13.4	12.4	12.9	13.0	13.1	12.8	13.1	9.4
	営業日数	22	20	21	23	19	22	23	20	20	20	20	22	252	251
	利用率	66.6%	68.0%	68.6%	65.2%	62.9%	65.0%	67.0%	62.0%	64.3%	65.0%	65.5%	63.9%	65.4%	47.1%

Ⅴ．職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1		1									
サービス管理責任者	1				1							
看護師		1				1						
生活支援員	5	7	1	1	4	6	1	4			1	4
医師		1										
合計	7	9	2	1	5	7	1	4	0	0	1	4

令和７年度　　HN ひまわり事業報告書

Ⅰ．施設概要　利用実績

施設種別	生活介護
事業所番号	２０１８２００３６３
所在地	愛知県半田市乙川吉野町６７番地
事業開始日	平成２４年４月１日
障害種別	指定なし
定員	２０名
開所日/時間	月曜日～金曜日　　９：００～１６：００

A. 登録市町村 半田市

B. 利用実績

	生活介護	事業活動収入計 職員数合計
利用定員	20人	
利用者延数	5345人	
１日平均利用者数	21人	
稼働率、稼働指数	107.3%	
稼働日数	249日	
単価（一人一日当たり）	7,925	
介護給付費等収入	42,360,370	42,360,370
職員数（常勤換算）	4.8	4.8

Ⅱ．事業計画・目標の達成状況

A.　運営目標・理念

自立を目指し、共に笑顔の未来へ

利用者一人ひとりが自らの可能性を信じ、地域社会の一員として役割を持つことで、支援者と共に明るい未来を創造することを目指します。

B.　事業計画

１．当事者にも社会的役割がある街づくりを目指して

横川小学校区の作品展示会、乙川地区の夏祭り出店等の地域の活動に参加し、利用者様に社会的役割を実感していただく。自主製品の取り組みは、新たな製品を作りフリースペースのマルシェをはじめとした催しで販売し、事業所の周知に努めた。

２．生活習慣病予防に向けた運動プログラムの導入

食後のストレッチ体操やウォーキングを継続的に取り組む。愛知県のフライングディスク大会に向けて、ただ身体を動かすだけで無く、目標を持った運動プログラムを実施した。

３．業務の効率化

請求業務をはじめ記録業務等転記の必要がほぼ無くなり利用者へのサービス提供に集中できる環境になった。非常勤職員も積極的に記録を取ることができるようになった。

４．BCP の強化と災害対策

BCP と備蓄品の見直しを行い、有事への意識を高めた。利用者様ご家族に向けて、現在半数のみの登録であるオフィシャルＬＩＮＥの登録率を上げ 2/3 程になり、迅速に情報共有ができる様に進めた。

５．新たな加算の取得

異動により加算要件を満たす職員がいなくなったが半年間で研修に参加していただき配置ができるようになった。

加算要件を満たすための研修、資格にならないよう他の事業所と連携を取り職員のスキルアップにつなげていく。

６．国際共生への取り組み

現状、ニーズもなく何も進んでいない。

C.　研修計画

ＨＮひまわりが求める職員像

「感謝と挑戦を忘れずに共生社会の実現を目指す職員になろう」

人を思いやり自らも大切にし、その中で組織の一員としての自覚を持ち協調性のある職員になる。また、自ら課題を抽出し、挑戦する気持ちを常時持ち続ける。

・一般職員

利用者に寄り添った支援者

利用者本人の気持ちや状態に耳を傾け、自立のために「できることを引き出す支援」を意識した行動がとれる職員を目指していく

・リーダー職員

チームとしてまとめる支援のリーダー

支援の質を高め、一般職員に対して指導・助言が出来る。利用者の状況や支援計画をチームで共有し、実践をけん引する職員を目指していく。

救命救護研修（メビアと合同開催）半田消防署による AED 使用講習を受講は実施できなかった。

半田消防署による消火訓練講習を受講は出来なかったがメビア、シェアハウス合同の避難訓練を行った。

半田市による虐待･身体拘束防止研修を受講し利用者の権利を尊重した支援について学び全職員に伝達研修を行った。

個別研修としては、主任が志賀セミナーを受講し、組織運営および支援力の向上を図った。

強度行動障害支援者養成研修の基礎研修に１名、実践研修に２名が参加し、専門的支援技術を習得した。

高齢知的障害者への支援に関する研修会に１名が参加し、利用者の高齢化に対応した支援のあり方について理解を深めている。

Ⅲ．対処すべき課題

当事業所においても、利用者様の介護保険への移行が緩やかに進んでおり、今後も利用者数の減少が予想される。

そのため、令和７年度に引き続き、特別支援学校や小中学校、放課後等デイサービス事業所との交流を通じて、作業内容を体験・理解してもらう機会を設け、HN ひまわりの認知度向上を図るとともに、卒業後の進路先として選択してもらえるよう取り組んでいく。
また、相談支援事業所や特別支援学校との連携を強化し、新規利用者の確保に努めていく必要がある。
併せて、グループホームにおける生活スキルの向上支援および居住支援との連携についても、継続して取り組んでいく。

Ⅳ．利用者の状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和7年度	令和6年度
生活介護	延べ人数	452	425	449	506	374	427	482	407	437	469	437	480	5345	5021
	一日平均	20.5	21.3	21.4	22.0	20.8	20.3	21.0	21.4	21.9	23.5	21.9	21.8	21.5	20.3
	営業日数	22	20	21	23	18	21	23	19	20	20	20	22	249	247
	利用率	102.7%	106.3%	106.9%	110.0%	103.9%	101.7%	104.8%	107.1%	109.3%	117.3%	109.3%	109.1%	107.3%	67.7%
														※定員20名	※定員30名

Ⅴ．職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	0.5		0.5									
サービス管理責任者	0.5		0.5									
生活支援員	3	8	1		2	5		2		2		
看護師		1				1						
医師		1		1								
調理員		1				1						
合計	4	11	2	1	2	7	0	2	0	2	0	0

令和７年度　　JJ ヒマワリ事業報告書

Ⅰ．施設概要　利用実績

施設種別	生活介護	短期入所
事業所番号	２３１８２００３０６	２３１８２００４７０
所在地	半田市吉田町４－１７５	左記と同じ
事業開始日	平成２２年１０月１日	平成２７年４月１日
障害種別	指定なし	左記と同じ
定員	１日３０名　＊10 月より変更	１日３名
開所日/時間	月曜日～金曜日 ９：００～１６：００	火曜日～土曜日 １６：００～９：００

A. 登録市町村 半田市　常滑市　東海市　武豊町　美浜町

B. 利用実績

	生活介護	短期入所	事業活動収入計 職員数合計
利用定員	30人		
利用者延数	7408人		
１日平均利用者数	29人		
稼働率、稼働指数	98.0%		
稼働日数	252日		
単価（一人一日当たり）	¥10,056		
介護給付費等収入	¥74,493,521		¥74,493,521
職員数（常勤換算）	9.3		9.3

Ⅱ．事業計画・目標の達成状況

A.　運営目標・理念

『一日一笑　～より楽しく、より面白く～』

・JJ ヒマワリに通う一人ひとりが事業所や地域（板山小学校区や青山中学校区）の中で「楽しみ」「いきがい（役割)」を持つこと
・共に地域の一員として、助け合える関係ができる機会と場をつくること、又は出向くこと
を通してご利用者には『明日もまた来たい・やりたい』、保護者や地域の方々には『ヒマワリさん、いつもありがとうね～』と言っていただけるような事業所運営を目指す。

B.　事業計画

・生活介護　（定員３０名）

１.『障害特性とアセスメントの理解を元に、統一した根拠のある支援を提供する』

事業所の理念を月に一度振り返ることはできなかった。研修と OJT を元にした人材育成では、中核的

人材養成研修の内容の共有や事業所内の研修を実施することで一部成果が見られた。ただ現状、一部の支援は個人のスキルに依存している側面がある。全ての職員がアセスメントに基づいた共通の根拠を持ち、一貫性のある支援を提供できるよう体制を整える必要がある。

２.『利用者も家族も職員も、　より楽しく、より面白く　活動する』

外部講師や学生、ボランティア団体といった外部からの人の出入りする仕組みを継続できた。また、その中でワークショップを利用者の保護者にも参加いただく機会を１度つくることができた。

検品等の職員負担が大きな内職作業は廃止することができ、直接支援の時間をより確保できるよう努めた。また、スタッフ間のミーティングも月に１度開催し、情報共有をスムーズに行うことができた。

３.『地域とともに、課題や困り感に取り組む機会や一緒に楽しめる場をつくる』

事業所内の BCP の周知のため、勉強会・研修を実施することができた。また月に１度の事業所での避難訓練に加えて、板山区の防災訓練に参加することができた。

また、今年度板山区の青色防犯パトロールの活動に加わることができたことは地域課題への取り組みとして実践できた。継続して、地域の清掃活動や地域行事への参加は継続できているので、事業所の名前や役割を発信することが少しずつできた。

・短期入所　（定員３名）

１.『緊急時の受け入れ』

実績はなかった。

C.　研修計画

JJ ヒマワリが求める職員像

事業所理念に沿って、「一日一笑」を体現し、より楽しく、より面白く利用者やその家族、スタッフと関わることができる

①法人全体研修　年１回

②虐待防止研修　年１回

③強度行動障害研修簡易版　年１回

④法人内管理者向け研修及び次期リーダー研修　随時

③は実施できなかった。それ以外は受講済。また、中核的人材養成研修を１名修了。

Ⅲ．対処すべき課題

・生活介護

運営に関して、令和７年度の新規契約者は０名。それに対して、３名の退所者があった。利用者数の換算方法の助言を受け、10 月より定員変更を行い、基本報酬が微増したが、大きな改善は見られない。令和８年度は新規利用者３名の受け入れを行う予定ではあるが、特別支援学校の実習や見学を積極的に受け入れること、各相談支援事業所にも営業をして、中途利用の方も視野に入れて利用者獲得をしていくことが課題である。

そのためには、利用者にとって魅力ある活動や「やりたい」と思える活動を準備し、実践していくことが必要である。チーム内部の意思を合わせて、外部講師や学生、ボランティア等、外部の人たちの力も頼りな

がら、カタチにしていくことが課題である。また、個人のスキル依存から脱却するために中核的人材養成研修の内容を現場支援に落とし込んでいくことも課題である。

それらの課題を実践していくために、職員育成・マインドの形成への課題にも対処していく。OJT 及び月に１回の１ON１ミーティングを継続して、「理念をもとに判断すること」ができる人材を育てていくことが事業所、及び法人を継続させていくうえで必要である。

・短期入所

ニーズ把握を行い、必要に応じて休止等も視野に入れた再編を検討する。

Ⅳ．利用者の状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和7年度	令和6年度
生活介護	延べ人数	671	623	649	678	533	641	688	577	594	573	565	616	7408	7841
	一日平均	30.5	31.2	30.9	29.5	28.1	29.1	29.9	28.9	29.7	28.7	28.3	28.0	29.4	32.6
	営業日数	22	20	21	23	19	22	23	20	20	20	20	22	252	252
	利用率	76.3%	77.9%	77.3%	73.7%	70.1%	72.8%	99.7%	96.2%	99.0%	95.5%	94.2%	93.3%	98.0%	81.5%
短期入所	延べ人数														
	一日平均														
	営業日数														
	利用率														

Ⅴ．職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1		1									
サービス管理責任者	1		1									
生活支援員	6	6	2		5	6			1	1	-1	-1
看護師		1				1						
栄養士	1				1							
調理員		2				2						
合計	9	9	4	0	6	9	0	0	1	1	-1	-1

令和７年度　　ふれあいの杜まんなか事業報告書

Ⅰ．施設概要　利用実績

施設種別	生活介護　短期入所　放課後等デイサービス
事業所番号	２３１３２００１４５　　２３５３２０００１３
所在地	愛知県碧南市若松町３丁目１０５番地
事業開始日	平成２４年４月１日
障害種別	指定なし
定員	生活介護　２０名　短期入所　４名　放課後等デイサービス　１０名
開所日/時間	生活介護 月曜日～金曜日　　９:００～１６:００ 放課後等デイサービス 月曜日～金曜日　　放課後　　１４:３０～１７：３０ 学校休業日　１０：００～１６：００

A. 登録市町村

生活介護、短期入所　　碧南市　高浜市　西尾市

放課後等デイサービス　　碧南市　高浜市　西尾市

B. 利用実績

	生活介護	短期入所	放課後等デイサービス	事業活動収入計 職員数合計
利用定員	20人	4人	10人	
利用者延数	4837人	7人	2287人	
１日平均利用者数	20人	2人	9人	
稼働率、稼働指数	97.5%	43.8%	93.0%	
稼働日数	248日	4日	246日	
単価（一人一日当たり）	17,101	24,661	12,804	
介護給付費等収入	82,719,350	172,625	29,282,405	112,174,380
職員数（常勤換算）	9.93		3.6	13.53
	※管理者,サビ管除く		※管理者、児発管除く	

Ⅱ．事業計画・目標の達成状況

A. 運営目標・理念

● 生活介護

「共に生活を充実させ、共に地域へのひろがりをつくる」

地域ボランティアの方と一緒に開催する「まなぼうさい」については、恒例行事としての定着が着実に進みました。

また、行動障害を理由として地域の日中支援事業所での対応が難しい方についても、積極的に受け入れることができました。

その結果、地域に必要とされる事業所としての第一歩を大きく前進させることができています。

さらに、障害特性に沿った支援を継続する中で、行動障害への支援に強みを持つ事業所として、地域に徐々に浸透し始めています。

● 短期入所

「ご家族にもほっと一息つける時間を」

年間を通じてサービス提供が行えた日数は、年間で4日となり、ニーズへの対応は月日を追うごとに難しさに直面する結果となりました。

しかしながら、近隣のグループホームと連携を図り、対応可能な事業所の情報収集を進めることで、利用者の方が安心して利用できるよう、情報共有が行える仕組みの構築を進めています。

● 放課後等デイサービス

「つながる支援、ひろがる未来」

今年度は、1名の方が学校を卒業し、法人内の事業所へ進路移行されました。今後も進路先と継続的に情報交換を行い、より安心して利用していただける支援体制や環境づくりに向けたフォローを行っていきたいと考えています。

また、今年度も多くの新規利用者様にご契約をいただきました。中でも、行動障害の特性により、これまで利用していた事業所での受け入れが困難となり、利用先が見つからないというニーズで通所される方が多く見られました。

そうした事情に十分配慮し、当事業所の強みである「行動障害のある方への安心できる支援」を提供できる事業所としての体制を確立することができました。

事業計画

● 生活介護（定員20名）

障害特性に寄り添う支援・行動障害への対応強化

どのような障害のある方であっても、地域において安定した日中生活を送ることができるよう、本人の特性に合わせた支援を継続して提供します。

そのため、個室や個別支援が可能となるスペースの確保を進めます。

また、行動障害に関する学びの機会を充実させ、支援の中核として職員がサポートや助言を行える体制の整備を進めていきます。

地域との連携強化

水源公園ボランティア活動および大浜地区地域防災福祉促進会議との取り組みを軸に、利用者が社会的役割を持てる地域づくりを進めていきます。

特に水源公園ボランティアでは、「花を咲かせようプロジェクト」や、子どもたちが幸せを感じられるイベントの企画・運営を利用者と共に行い、地域とのつながりを深めていきます。

月平均利用率100%（20名）以上の達成

年度当初には新規利用者2名が入所され、利用率は100%を超える状況となりました。その後、年度内に2名の方が高齢サービスへ移行されたことで、利用率は一時90%前半まで低下しましたが、年度末ごろに1名が新たに入所され、利用率は再び100%近くまで回復しました。

また、次年度入所希望者として2名の方が見学および契約をされており、さらに翌々年度の新規利用者に向けて、支援学校から3名の実習希望が出ています。これらの状況から、長期的には定員増についての検討が必要であると考えられます。

加えて、既存利用者に対しては、「明日も行きたい」と感じられるような活動の充実や健康維持に向けた取り組みを行い、体調悪化による欠席が増えないよう工夫を重ねていきます。

インカムの活用強化

インカムを導入し活用していく中で、チャットとインカムを使い分け、様々な情報を共有すること

ができ、
「聞いていない」「知らなかった」という情報が限りなく少なくなりました。
ただし、完全にゼロになったわけではないことや、一方通行の情報に対してアクションができていない点については、今後の課題として引き続き向き合っていく必要があります。

● 短期入所（定員 4 名）

日中支援との両立が難しく、制度改正により現体制では法令要件を満たさないため、次年度は廃止を含めサービス提供を中止します。
一方で、利用者の社会資源が失われないよう、関係機関との連携や家族への情報提供を行い、代替資源の確保を進めています。
これらの経験から、短期入所の事業所内運営は困難であることを再認識し、今後は日中支援に重点を置きつつ、夜間対応については外部事業所と連携して補う方針とします。

● 放課後等デイサービス（定員 10 名）

つなぐ支援の充実

中高生を中心に、卒業後のつながりを提案できる環境を整備し、将来につながる選択肢を増やしていきます。他事業所との連携をさらに拡大し、共通支援や支援方法の統一・共有を進めることで、どの事業所でも一貫した支援が受けられる体制を構築します。

月平均利用率 100%（10 名）の定着

年度当初は90%前半の水準でしたが、夏休みごろから新規利用者が4名利用開始し、利用率が100%となる月もありました。
その後、実習やインフルエンザ等の流行により途中退所者が 2 名あったものの、登録利用者の利用日拡充や新規利用者 2 名の受け入れにより、一時期 80%台まで落ち込んだ利用率も 90%台まで回復しました。
利用定員の超過については県の指導が厳しくなっていることから、1 日の定員数を過度に増やすことは難しい状況です。その中でも「空きがあれば利用したい」という声が多く寄せられているため、欠席が出た場合は速やかに利用者補充に向けた営業活動を進めていきます。

碧南市内の利用希望者への対応

多動・行動障害のある児童を受け入れられる事業所が少ないことから、利用先が見つからない児童が顕著に生まれ始めています。
そのため、まずは碧南市内の利用希望者を優先し、市外利用者については居住市町村でのサービス利用につながるよう、相談支援事業所や移行先事業所との連携を図ります。
ケースによっては調整が困難な場合も多いため、事業所として困っている方へできる限り対応できるような工夫を重ね、必要とされる事業所としての役割をより強化していきます。

C. 研修計画

まんなかが求める職員像

＜全職員共通＞

他人事でも全力で助けることができる職員になる

＜一般職員＞

利用者のため、地域のため、共に働くチームのため、いつでも助けられる準備をする

＜リーダー職員＞

常に課題に向き合い、自分以外の課題解決についても、最前線で解決に向けた手助けができる職員になる

研修内容

- 事業所内・外部講師研修（マナー研修、障がい者の性について）：全職員
- 強度行動障害支援者研修（基礎・実践）：通年随時／全職員
- サービス管理責任者研修（基礎・実践・更新）：要件該当職員
- 児童発達支援ネットワーク事業研修（碧南市）：通年随時／放課後等デイサービス
- 事業所内動画研修（Web 配信）：月 3 回以上／全職員
- 法人全体研修（研修委員会主催）：年 1 回／全職員
- 地域福祉研修（碧南市社協・自立支援協議会）：生活介護・放課後等デイサービス常勤職員中心
- 各種団体研修（ソウェルクラブ：権利擁護・虐待防止・メンタルヘルス等）

研修計画に対する評価・成果

強度行動障害支援者研修については、常勤職員全員が受講を修了し、非常勤職員についても現在 6 名が受講完了しており、研修後の支援内容や関わり方には明確な変化が見られています。
また、職員一人ひとりが自らの支援課題を踏まえ、どの研修を受講すれば支援の質向上につながるかを意識的に選択できるようになってきている点も、事業所の大きな強みとなっています。
事業所内研修および法人全体研修への参加率は法人内でもトップクラスを維持しており、常勤・非常勤を問わず、学びの場に対する職員の積極性は年々向上しています。
さらに、介護福祉士資格の取得者も毎年増加しているほか、サービス管理責任者の候補職員も明確となり、人材育成の見通しが立てられる体制が整ってきています。
これにより、突発的な退職や人事異動が生じた場合においても、事業所内で柔軟かつ安定した対応が可能な組織体制の構築が進んでいると評価できます。

Ⅲ．対処すべき課題

● 生活介護

行動障害のある方が増加し、個別支援を行うためのスペースに限界が見え始めています。今後は定員増の計画も視野に入れつつ、土地の購入やコンテナハウスの設置等も検討し、より安心して通える事業所づくりを進めていきます。

● 放課後等デイサービス

年度後半に、知的障害の程度が軽い方への個別支援が十分に提供できない日が続き、利用終了につながるケースも見られました。
利用者の多様化が進む中で、個別スペースの確保や支援方法の幅を広げることが急務となっています。今後は職員のスキル向上を図るとともに、過去の支援方法にとらわれず、現在の利用者像に合った形でプログラムの多様化を進めていきます。
また、個別活動だけでなく、集団で参加できる活動を軸とした支援体制へ再構築していく必要があります。

● 施設整備・修繕

建物・車両・備品等の老朽化が進んできているため、計画的な管理および修繕を実施していきます。

Ⅳ．利用者の状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和7年度	令和6年度
生活介護	延べ人数	458	393	420	424	354	383	426	387	391	382	403	416	4837	4500
	一日平均	20.8	19.7	20.0	19.3	18.6	18.2	19.4	19.4	19.6	19.1	20.2	19.8	19.5	18.3
	営業日数	22	20	21	22	19	21	22	20	20	20	20	21	248	246
	利用率	104.1%	98.3%	100.0%	96.4%	93.2%	91.2%	96.8%	96.8%	97.8%	95.5%	100.8%	99.0%	97.5%	91.5%
放課後等デイサービス	延べ人数	204	186	195	220	177	191	198	167	191	183	178	197	2287	1835
	一日平均	9.3	9.3	9.3	10.0	9.8	9.1	9.0	8.8	9.6	9.2	8.9	9.4	9.3	7.5
	営業日数	22	20	21	22	18	21	22	19	20	20	20	21	246	245
	利用率	92.7%	93.0%	92.9%	100.0%	98.3%	91.0%	90.0%	87.9%	95.5%	91.5%	89.0%	93.8%	93.0%	74.9%

Ⅴ．職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	0.5		0.5								0	0
サービス管理責任者	1		1								0	0
生活支援員	3	13	1	3	3	10		7		3	0	4
看護師		2				2		1			0	1
調理員		1				1					0	0
合計	4.5	16	2.5	3	3	13	0	8	0	3	0	5

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	0.5		1								0	0
児童発達支援管理責任者	0.5		1								0	0
保育士											0	0
児童指導員	3	1			3	1					0	0
指導員											0	0
合計	4	1	2	0	3	1	0	0	0	0	0	0

令和７年度　　碧南ふれあい作業所事業報告書

Ⅰ．施設概要　利用実績

施設種別	生活介護
事業所番号	２３１３２０００２０
所在地	愛知県碧南市中山町１－１６－１
事業開始日	平成８年７月１日
障害種別	指定なし
定員	生活介護　６０名　　日中一時　７０名
開所日/時間	月曜日～金曜日　　９：００～１６：００

A. 登録市町村　　碧南市、高浜市、西尾市

B. 利用実績

	生活介護	日中一時	事業活動収入計 職員数合計
利用定員	60人	70人	
利用者延数	12748人	1090人	
１日平均利用者数	51人	4人	
稼働率、稼働指数	85.7%	6.0%	
稼働日数	248日	260日	
単価（一人一日当たり）	7,542	6,020	
介護給付費等収入	96,145,823	6,562,000	102,707,823
職員数（常勤換算）	11.7		11.7

Ⅱ．事業計画・目標の達成状況

A.　運営目標・理念

・「作業に特化した生活介護」　社会人として毎日仕事をしながら、生活介護としてのプログラムや楽しみもある施設。仕事と余暇のメリハリのある生活を目指す。

・「高齢利用者の活躍の場を」　高齢になってもできる仕事に取り組み、いつまでも社会の一員として働ける環境を提供し、人生の生きがいを一緒に見つける。

令和７年度は、農園の花苗を通じて地域交流を図り、市内の幼稚園・保育園を訪問し、利用者と園児が一緒に花苗を植える活動を行った。また、中山福祉会と協力して中央中学校の花壇を作業所の花でいっぱいにし、生徒と花苗を通じて交流を深めた。

ひいらぎ特別支援学校では、出前授業の一環として作業所の利用者が生徒に紙漉き作業を教え、体験してもらうことで親睦を深めた。西尾特別支援学校では、授業の一環として利用者と生徒が種から花を育て、碧南市役所と西尾市役所、おしろタウンシャオの玄関前に花を飾りました。この活動は三河新報と愛三時報に掲載されました。さらに、西尾特別支援学校の卒業生に送る色紙を紙漉きで作成する体験も行った。また、令和７年度から安城特別支援学校との交流が始まり、にしお特別支援学校と同様に、授業の一環として花苗づくりや紙漉きを通じて交流を深めた。 花苗については、安城消防署南分署と桜井公民館に生

徒の皆さんと作業所の利用者で育てた花を設置させていただき、地域の皆さまにもご覧いただく機会となった。また、安城特別支援学校の生徒さんは授業で紙漉きを行っており、作業所で培ってきたノウハウや技術を伝えながら、一緒にはがき作りに取り組んだ。 互いに学び合いながら、楽しい交流の時間となりました。

タニザワフーズの「あゆみの箱」による寄付を契機として、そのつながりを発展させ相互交流の機会創出に取り組んだ。作業所で育成された花苗をケンタッキー碧南店とかつ家西尾店へ設置する取り組みを実施し、来店客に対して福祉活動への理解促進を図るとともに、利用者の社会参加意識の向上拡大に寄与し、共生モデルの構築を目的として地域社会貢献と企業価値の向上を両立させた。

余暇としては、社会見学（リニア鉄道館）、バーベキュー大会、ハロウィンパーティー、クリスマス会など、毎月季節のイベントを企画し、利用者に楽しんで頂き、リフレッシュして頂いた。

高齢班（ピース班）の活動も月に１回以上の活動日を設け、喫茶活動や誕生日会を開くなどして作業以外での余暇活動時間の充実を図った。またそれぞれに個別目標を設定し、リハビリテーションプログラムも含めた運動を行い、健康維持に努めた。

また、今年度６５歳を迎える利用者はいないものの、本人・家族の望む生活が継続して行えるよう適時碧南市との連携、調節を図り「６５歳問題」解決に向け取り組んでいく。

地域への認知拡大と販路開拓を目的として、紙漉き製品を碧南市のふるさと納税返礼品として登録した。これにより、製品を広く発信するとともに、事業所の取り組みや活動内容を市内外へ周知する機会を創出した。

令和８年２月には社会福祉士実習ソーシャルワーク実習 Ⅰ における日本福祉大学からの実習生１名の受け入れを行い、６０時間の実習指導を実施した。実習を通じて、専門職人材の育成に寄与するとともに、職員にとっても指導力や専門性の向上を図る良い機会となった。今後も各教育機関との連携を継続し、地域福祉を担う人材育成の貢献をおこなっていく。

B.　事業計画

生活介護（定員６０名）

① 新規利用者２名を目指す

・令和７年度は、４月に卒業生１名と新規利用者１名を受け入れ、さらに６月には高浜市から新規利用者１名が加わり、計３名の新規利用につなげることができた。ただ、７月に１名退所。一方で、施設全体としては高齢化が進んでいることから、今後も卒業生の受け入れはもちろん、地域で行き場のない方々を受け入れられる体制づくりが求められている。そのため、相談支援事業所や特別支援学校との連携をより一層強化し、地域のニーズに応えられる支援体制の整備を進めていく。

② 地域交流

・わらふぇすや各種イベントでは、移動式の紙漉き機を活用し、来場者が紙漉きを体験できる機会を設けた。完成したハガキは後日作業所まで取りに来ていただくことで、地域の方に実際に作業所へ足を運んでもらうきっかけづくりにもつながっている。また、認知症関連のイベントでは、作業所で育てたマリーゴールドの種を配布し、作業所の取り組みを地域に知っていただく機会を設け、地域貢献につなげる予定であった。しかし、今年度はイベント自体が休止となり、参加することができなかった。

・紙すき体験の場を年２回設けるにあたり、今年度は、にしお特別支援学校と安城特別支援学校

へ移動式の紙すき機を持参し、利用者が講師となって生徒に紙すき体験を行った。

・花苗という作業所のツールを活用し、中央幼稚園や西端小学校との交流を行った。幼少期から障がいのある方と接する機会をつくることで、「自分とは違う特長を持つ人がいる」ということを自然に理解してもらい、それが当たり前の風景として根付くように交流を進めた。

・令和５年度から「中山福祉の会」の活動に協力している。今年度もその一環として、中央中学校の生徒とともに花苗を育て、地域の花壇の植え替えを利用者と一緒に行った。

③ 利用者の健康管理

・毎朝朝礼後にラジオ体操を行った。引き続き行っていく。

・高齢班だけではなく、全利用者の健康管理を行う為にも月に１～２回「ボッチャプログラム」「ピース体操（アイディアＣ体操)」を引き続き行っていき、体力維持を図った。

・ボッチャプログラムは、知多郡美浜町にある社会福祉法人みはま福祉会が運営する生活介護事業セルプ・アゼーリアと 10 月に試合を行い２対１で負けた。11 月の日本福祉大学のボッチャ大会では、２回戦敗退に終わった。２月には、社会福祉法人くるみ会と試合を行い、３対０で負けた。職員が健康の知識をつける為の研修は行えなかった。

④ 利用者支援の強化

・令和６年度に引き続き、令和７年度も利用者の気持ちを知る会議を月１回開催した。今年度は主に、強度行動障害に関する氷山モデル作成の講習を実施し、職員が福祉業界の最新の支援知識を身につけられるよう研修を行った。これにより、職員一人ひとりの支援に対する意識向上を図ることができた。また、障がい者総合支援センター第２ひまわりとはリモートで氷山モデルの作成方法について学び、さらに株式会社あいぽへ見学に伺い、強度行動障害の支援方法について理解を深めた。外部研修で得た知識は職員会議で共有し、支援の質の向上につなげていった。

⑤ インカムの導入

・令和７年度からインカムを導入し、業務連絡をより円滑に行える体制を整えた。

⑥ 国際共生

・令和７年度は毎月ポルトガル語研修を実施した。研修当初は発音アプリを活用して勉強会を行っていたが、それだけでは習得が難しい面もあったため、途中からポルトガル語を話せる職員を講師として招き、挨拶から日常の簡単な会話まで学習を進めた。その結果、今年度から通所しているブラジルの利用者の方に、職員がポルトガル語で挨拶できる程度まで上達することができた。今後、外国籍の利用者が増える可能性もあるため、引き続き簡単な日常会話ができるレベルを目指して日々努力していきたい。

日中一時支援　（定員７０名）

・令和７年度は利用者の高齢化が進んだこともあり、移動に車いすや歩行器を使用する方が増え、5：1 の職員配置では対応が難しい状況が生じた。また、売上と人件費のバランスが取りにくいこともあり、室内で楽しめる企画を提案し、利用者に楽しんでもらえるよう工夫した。季節のイベントや調理実習などを毎月計画し、特に調理実習では安全面に十分配慮しながら実施したこ

とで、安心・安全に取り組むことができた。

また、介護保険へ移行した利用者が日中一時支援を利用するようになり、令和 7 年度現在では 4 名が利用している。

C.　研修計画

【碧南ふれあい作業所が目指す職員像】

『利用者の気持ちに寄り添い、自分で考え行動ができ、職員で共有し合える伴走者（職員）になろう』

まずは、自分の気持ちを理解し、他者の持っている視点や意見を理解し、自分ごととして感じとり、共感力を高めていく。それと共に、行動も変化していけるようにしていく。

・全職員共通

『利用者主体の支援』と『チーム連携』

・一般職員

『利用者に寄り添った丁寧な支援者 』

利用者の気持ちや状態に耳を傾け、「できることを引き出す支援」を意識した行動がとれる職員を目指していく。

・リーダー職員

『チームを牽引する支援のリーダー 』

支援の質を高め、一般職員に対して指導・助言が出来る。利用者の状況や支援計画をチームで共有し、実践をリードする職員を目指していく。

個別研修としては、管理者及び主任が志賀セミナーを受講し、組織運営および支援力の向上を図った。

強度行動障害支援者養成研修の基礎研修に１名、実践研修に１名が参加し、専門的支援技術の習得を進めるとともに、強度行動障害者への支援体制強化を目的として、北海道の社会福祉法人ゆうゆうへの視察を１名が実施し先進的な取り組みの知見を得ている。

サービス管理責任者実践研修に１名が参加し、サービス提供体制の質の向上に努めた。

食品衛生責任者実務講習会には１名が２回参加し、衛生管理体制の維持・強化を図った。

高齢知的障害者への支援に関する研修会に１名が参加し、利用者の高齢化に対応した支援のあり方について理解を深めている。

権利擁護および虐待防止の観点から権利擁護・虐待防止セミナーに１名が参加し、利用者の権利を尊重した支援について学んでいる。

さらに、災害時における支援体制の強化を目的として、災害支援に関する研修、BCP 策定講座および防災講習会に１名が参加し、非常時における対応力の向上と事業継続体制の整備を推進した。

Ⅲ．対処すべき課題

・生活介護（定員６０名）

・数年前から利用者本人およびご家族の高齢化が進み、急な体調不良や病気により医療的ケアが必要となる方が増えている。令和 6 年度には、65 歳となり介護サービスへ移行した利用者が 3 名いたが、現在も 60 代の利用者が約 9 名在籍しており、令和 10 年には再び移行者が増え「第 2 波」が訪れる見込みである。今後も利用者数の減少が予想されることから、令和 7 年度に続き、特別支援学校や小中学校、放課後デイサービス事業所との交流を通じて作業内容を体験・理解してもらい、作業所の認知度向上を図るとともに、

卒業後の進路先として選んでもらえるよう取り組んでいく。また、相談支援事業所や特別支援学校と連携し、新規利用者の確保にも努めていく必要がある。

・碧南ふれあい作業所は市の指定管理を受けて管理・運営を行っているが、碧南市との協議の中で指定管理を外す動きがある。指定管理が外れた後も、利用者が安心して利用できるよう、引き続き適切なサービスを提供していく。

・日中一時支援

日中一時支援事業（成人：定員７０名）

・令和 7 年度は利用者の高齢化が進んだこともあり、移動に車いすや歩行器を使用する方が増え、5：1 の職員配置では対応が難しい状況が生じた。また、売上と人件費のバランスが取りにくいこともあり、室内で楽しめる企画を提案し、利用者に楽しんでもらえるよう工夫した。季節のイベントや調理実習などを毎月計画し、特に調理実習では安全面に十分配慮しながら実施したことで、安心・安全に取り組むことができた。

また、介護保険へ移行した利用者が日中一時支援を利用するようになり、令和 7 年度現在では 4 名が利用している。

日中一時支援事業（児童）

・令和 7 年度に日中一時支援を再開し、働ける生活介護として作業所に興味を持つ児童に対し、紙漉き、下請け作業、農園作業などを体験できる機会を設けている。これにより、卒業後に作業所へ通所する際の環境変化を少しでも軽減し、精神的負担を抑えながら円滑に移行できるよう取り組んでいる。再開後は契約者 10 名のうち、主に 5 名の児童が利用している。再開から 1 年が経過した現在、利用者をさらに増やせるよう、営業活動を行うとともに、作業所の認知度向上にも引き続き努めていく。

Ⅳ．利用者の状況

碧南ふれあい作業所	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和7年度	令和6年度
生活介護	延べ人数	1124	1112	1067	1209	1009	1012	1128	1069	997	968	1001	1082	12778	12778
	一日平均	51.1	55.6	50.8	55.0	53.1	48.2	51.3	53.5	49.9	48.4	50.1	51.5	51.5	52.4
	営業日数	22	20	21	22	19	21	22	20	20	20	20	21	248	244
	利用率	85.2%	92.7%	84.7%	91.6%	88.5%	80.3%	85.5%	89.1%	83.1%	80.7%	83.4%	85.9%	85.9%	87.30%
日中一時（成人）	延べ人数	89	83	83	83	40	78	84	85	70	76	61	87	919	963
	営業日数	23	21	22	23	19	22	23	22	21	21	21	22	260	256
日中一時（児童）	延べ人数	10	13	12	18	23	12	11	10	15	15	11	21	171	26
	営業日数	7	8	9	14	20	7	7	6	7	6	7	7	105	25

Ⅴ．職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1				1							
サービス管理責任者	1				1							
生活支援員	7	8	3	1	4	7		1		1		1
看護師		3				3						
調理員		1		1								
カウンセラー	1					1						
合計	10	12	3	2	6	11	0	1	0	1	0	1

令和７年度　　ふれあい工房アルゴ事業報告書

Ⅰ．施設概要　利用実績

施設種別	就労移行支援　就労継続支援Ｂ型　就労定着支援　就労選択支援
事業所番号	２０１３２００１０３
所在地	愛知県碧南市丸山町５−２５−３
事業開始日	平成 24 年４月１日
障害種別	指定なし
定員	就労移行支援・就労選択支援　10 名　就労継続支援 B 型　25 名
開所日/時間	月曜日～金曜日　　９：３０～１６：００

A. 登録市町村 碧南市 高浜市 西尾市

B. 利用実績

	就労移行支援	就労継続支援B型	就労定着支援	就労選択支援	事業活動収入計 職員数合計
利用定員	10人	25人		10名	
利用者延数	1638人	4976人	57人	0人	
１日平均利用者数	7人	20人			
稼働率、稼働指数	66.0%	80.3%			
稼働日数	248日	248日			
単価（一人一日当たり）	8,708	8,481	27,207	0	
介護給付費等収入	14,263,722	42,202,701	1,550,812	0	
職員数（常勤換算）	1.7	4.1	0.2	0.9	6.9

Ⅱ．事業計画・目標の達成状況

A.　運営目標・理念

就労移行支援：社会性を身につけ就職率と定着率を UP！
就労継続支援 B 型：地域に貢献、工賃向上　健康で社会的な生活

令和７年度は、就労移行支援において一般就労３名の実績を挙げ、社会性の向上を通じて就職率・定着率 UP に向けた基盤を強化した。高次脳機能障害の利用者が就職し、医療機関・相談支援との連携が深まり、受け入れ可能な事業所としての信頼が高まった。引きこもり状態の方への支援も継続し、社会参加へのステップを提供した。生活リズム改善や運動プログラムを取り入れ、働くための体力づくりと健康習慣の定着を図った。一方で医療連携の難しさを痛感し、健康管理体制の強化が課題として浮上した。

就労継続 B 型では平均工賃が 33,000 円を超え、地域に貢献しながら工賃向上の目標を達成した。作業拡充が進む中、安定的な仕事の確保が今後の重点課題となる。挨拶や報連相など社会人基礎力が向上し、社会的な生活力の育成が進んだ。健康面では多面的な支援の必要性が明確となり、運動・栄養・健康管理を組み合わせた支援体制の整備を進めている。

令和７年 12 月に就労選択支援の指定を受けたため、就労事業所希望の方、特別支援学校生徒への適切なアセスメントを作成、提供することができるよう、アセスメント力向上と地域連携の深化を図る一年とする。

B.　事業計画

・就労移行支援　（定員 10 名）

計画：①令和７年度一般就労者５名を目指す。

就職者数は３名だった。就職に対する意識や意味合いを定期的に洗い出し、就職への意欲に繋げている中で、利用期間が長い人ほど意識が薄くなってしまう傾向がある。精神障害の方、通所が難しい方や健康面に不安がある方、休職から復職を目指していく方など、利用される方も多岐にわたってきている。

計画：②高次脳機能障害相談支援センターと協力して高次脳機能障害の受け入れ強化

令和７年度、１名の高次脳機能障害を有している利用者が就職した。高次脳機能障害に特化した相談事業所や碧南市の病院より相談を持ちかけられることもあり、利用の話にもつながるケースがある。就職・復職実績も残せており、高次脳機能障害の方々を就職・復職できる事業所として、実績を前面に出して、受け入れ可能な事業所としてのアピールも強化したい。そのためには、発症後から時間をかけずに利用できるよう、情報提供や各種関係機関との連絡を取り合っていく。

計画：③引きこもり支援へのアプローチ

相談支援事業所を介して、社会との関わり合いが弱い方々への受け入れをアピールしている。精神疾患や病気や怪我で社会との関係が希薄な方でも、適切なアプローチをかけて社会復帰している実績を出して受け入れを継続していく。

計画：④生活リズムを整え健康的な生活を身につける

健康管理プログラムの作成、罹患後の向き合い方等、プログラムに大きな動作を伴う活動をジムの活用をすることで取り入れることで、体力の向上や生活リズムの安定を確立する。

・就労継続支援Ｂ型　（定員 25 名）

計画：①月額平均工賃３万円を目指す

令和７年度は 33,000 円を超えることができた。現作業の拡充や新規作業の開拓もできているが、入荷や出荷が不安定な面もあるため、安定できる仕事も探している。また、キッチンカーの活用を年間通してほぼ毎月活用することができ、アルゴの知名度にはつながっていると実感する。販路拡大もあるが、収益化できるような実施形態も構築する必要がある。

計画：②社会人としてのマナーを身につける

利用者全体に挨拶の意識は高まっている。来客や訪問先でも大きな声で挨拶をすることができるようになった。報告や連絡、相談もできるように社会人としてのマナーを身につけて、成長していくことができるようにしていきたい。

計画：③高齢化・成人病予防のための健康維持

ジム活用等、運動を取り入れているが、それだけではなく、健康管理への意識向上、健康診断データからの読み取りと予測、栄養指導、食生活の改善など、多岐にわたる側面からの健康へのサポートが欠かせられない。ジム活用はもとより、職員も運動指導、栄養指導など健康アプローチを研鑽し、還元させることで、生活習慣病予防だけではなく、生活の充実につなげていく。

計画：④地域型就労継続支援Ｂ型への対応
　１名ではあるが、障害者スポーツ指導養成研修の実施につなげることができた。健康と運動への取り組みの専門性を実施できるようにプログラムを今後は取り入れたい。分離計画は法人計画との兼ね合いもあるが、職員には方向性を周知させている。

・就労定着支援
計画：①離職者０　期間就労後も適切な定着支援
　離職者は０名であった。長年働き続けいている方々にも個別の課題やニーズがあり、定着支援の期間が終了しても、引き続き見守っていきながら、必要に応じてサポートする必要性がある。勤務先や相談支援事業所等の各種関係機関との情報交換や本人との面談は欠かせなくなっている。

C.　研修計画
アルゴが求める職員像
【自ら考え、自ら律することができる支援者になろう】
福祉を取り巻く環境が社会情勢とともに大きく変わる中、既存のルールに縛られずに自分の頭で考えて何をしなければいけないかを自律できる支援者になるよう意識を高めていく

　令和７年 12 月に指定を受けた「就労選択支援」を中心に、就労関係事業所に変化が起こってきているトレンドに遅れないよう、セミナーをはじめ、研修動画や資料収集等の情報集約に努めた。「障害者の包括的性教育研修」、「パラスポーツ指導員養成研修」も受講し、専門性を高めることができている。
　職場環境にも力を入れ、意図的に５Ｓ（整理・整頓・清掃・清潔・躾）を習慣とできるよう、来客や見学へのイメージはもとより、実施することでの働きやすさと実施のもたらす効果（事故の減少、業務効率化等）を図った。
　プレップ（PREP）法も意図的に取り入れ、伝えるスピードと誤解の少なさ、伝達能力の向上から文章作成能力の向上を図り、継続していきたい。
　法人の全体研修も職員の８割が参加することができた。

Ⅲ．対処すべき課題

・就労移行支援
　就職率向上に向けた営業活動や関係機関との連携強化が課題となっていることと平行に、就職された後の欠員に利用者受け入れのための営業方法とアピール方法を学ぶ必要がある。
　利用者の多くは社会との関わりが薄く、生活リズムが崩れているケースが多いため、「朝起きて通所するという基本的な生活習慣の立て直し」や、体力不足を補う運動プログラムの継続とその見直し、個別化が必要である。さらに、精神障害の受け入れが増える中で「障害受容が弱く、うつや統合失調症などの二次障害を発症してしまっている」利用者への支援体制の強化が求められている。精神障害への対応を見直し、勉強会や研修等での知識をいかに現場で還元できるかもカギとなる。

・就労継続支援Ｂ型
　利用者の高齢化と障害の重度化が進み、「高度な仕事を覚えて工賃収入が上がっていく層」と「高齢化や障害が重いため工賃収入が下がってしまう層」の二極化が顕著であり、個々の能力に応じた作業提供と支援体制の再構築が求められている。そのための地域型就労継続支援Ｂ型は常に頭に入れておき、今後のアルゴの展望を職員それぞれがイメージしておくことは必要である。

健康面では、「健康診断データの悪化」や「運動不足」が深刻化していることから、運動・栄養・生活習慣の改善を含む多面的な健康支援の強化が急務である。

全体として、工賃向上・健康支援・作業確保・収益改善・地域型 B 型への移行準備という複数の課題に対し、組織的かつ計画的な対応が求められている。

・就労定着支援

定着支援期間終了後も個別課題を抱える利用者が多く、継続的なフォロー体制の強化が必要である。 問題が起きてからでは遅いため、企業・本人への早期ヒアリングによる予防的支援が求められる。 就労移行段階から定着支援を見据えた計画的な準備と、生活・社会性の安定支援を一体的に進めることが課題である。

Ⅳ．利用者の状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和7年度	令和6年度
就労移行支援	延べ人数	198	179	179	177	150	130	134	132	107	99	68	85	1638	1724
	一日平均	9.0	9.0	8.5	7.7	7.9	6.2	6.1	6.6	5.4	5.0	3.6	4.0	6.6	7.0
	営業日数	22	20	21	23	19	21	22	20	20	20	19	21	248	245
	利用率	90.0%	89.5%	85.2%	77.0%	78.9%	61.9%	60.9%	66.0%	53.5%	49.5%	35.8%	40.5%	66.0%	70.4%
就労継続支援B型	延べ人数	432	402	419	454	385	431	436	403	387	398	400	429	4976	5001
	一日平均	19.6	20.1	20.0	19.7	20.3	20.5	19.8	20.2	19.4	19.9	21.1	20.4	20.1	20.4
	営業日数	22	20	21	23	19	21	22	20	20	20	19	21	248	245
	利用率	78.5%	80.4%	79.8%	79.0%	81.1%	82.1%	79.3%	80.6%	77.4%	79.6%	84.2%	81.7%	80.3%	81.6%
就労定着支援	延べ人数	4	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	5	47	90
	一日平均														
	営業日数														
	利用率														
就労選択支援	延べ人数									0	0	0	0	0	
	一日平均														
	営業日数														
	利用率														

Ⅴ．職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1		1									
サービス管理責任者	1		1									
職業指導員	2	3	1		1	3						
目標工賃達成指導員	1				1							
就労支援員	1				1							
就労定着支援員	1				1							
就労選択支援員	2				2							
生活支援員	2	2	1		1	2		1		1		
調理員		2				2						
合計	11	7	4	0	7	7	0	1	0	1	0	0

令和７年度　　ＡＷひまわり事業報告書

Ⅰ．施設概要　利用実績

施設種別	就労移行支援　就労継続支援Ｂ型　就労定着支援　就労選択支援
事業所番号	２３１８２００３７１
所在地	愛知県半田市住吉町８丁目２番地
事業開始日	平成２４年４月１日
障害種別	指定なし
定員	就労移行　１０名　就労継続Ｂ型　３０名
開所日/時間	就労移行：月曜日～金曜日　継続Ｂ型：月曜日～土曜日 ９：００～１６:００

A. 登録市町村

半田市、常滑市、知多市、東浦町、阿久比町、武豊町、美浜町、南知多町

B. 利用実績

	就労移行支援	就労継続支援B型	就労定着支援	事業活動収入計 職員数合計
利用定員	10人	30人		
利用者延数	1513人	8321人	34人	
１日平均利用者数	5.9人	26.7人		
稼働率、稼働指数	59.1%	88.9%		
稼働日数	256日	312日		
単価（一人一日当たり）	12,708	9,395	27,192	
介護給付費等収入	19,227,095	78,171,946	924,542	
職員数（常勤換算）	2.5	7.8	0.3	10.6

Ⅱ．事業計画・目標の達成状況

A.運営目標・理念

一人の想いに寄り添い、地域社会を想像し創造する

一人の想いから物事は始まります。「～したい」を叶えるためのアイデア、デザインを一緒に想像すること。これが地域の創造に繋がると信じ、行動していく。

法人理念・事業所理念に基づき、事業所で何をするかではなく、地域や企業、人や物と連携し、ＡＷひまわりとして「ともに」を描く。近江商人の「三方よし」の精神で、「地域」、「工賃」、「就職」、「余暇」に取り組む。利用者の方だけでなく職員も「やりがい、働きがい」のある事業所を目指す。

夏祭りでは、地域の子どもたちの想いを具体化することが出来た。利用者の「警備員になりたい」という想いに対して、すぐに警備員として働くことが難しいため、地域の子どもの下校見守りを行うなどして、本人のやりがいや役割を実感できる活動に繋げることができた。

B. 事業計画

「地域」

・半田中学校区での多機関連携での活動　・住吉ささえあい隊「SuSaT」での活動
・半田中学校避難所運営委員会との連携　・こども、地域食堂おむすびの運営
・地域活性化

学童の子どもたちを中心とした夏祭りの開催や下校の見守りを行うことで繋がりが増え、ＡＷひまわりの存在も認知されるようになってきた。利用者一人一人の「やりたい」を具現化していくための動きを継続していく。

「工賃」

・月の作業収入目標１１０万円以上、３万５千円以上を目指す

平均工賃が４万５千円を超え、目標を大きく上回る結果となった。年度の途中で施設外就労先が１件減ってしまったが、新しい内職作業の単価交渉が上手くいき、全体を押し上げる結果となった。ただ、請負作業は世界情勢に大きく左右されやすいため、工賃の「維持」だけでなく「向上」も常に頭に入れて行動していく必要がある。

「就職」

・就職者の目標は移行から４名、Ｂ型から１名を目指す

移行６名、Ｂ型１名が就職することが出来た。雇用率の上昇により、売り手市場が加速したことも目標値より上回った要因だと考える。就労移行の利用者減も進んでおり、事業運営の視点で観ると不安定さは増している。利用者獲得の動きとともに、Ｂ型利用者の移行へのサービス変更に繋がる動きも進めており、令和８年４月から３名がサービス変更をすることとなった。

「余暇」

・生活の幅が広がるよう、目的意識をもって企画を行っていく

継続的に行っている企画は、改めて目的意識を確認することで月々を繰り返していくだけでなく先の目標を持って活動出来るようになってきている。余暇活動も利用者へのアンケートを通して、より一人一人に合った支援を考えていく。

「その他」

・健康

具体的な活動は行えておらず、声掛けのみにとどまった。訪問看護を利用している方については、訪問看護との連携を取りながら、日々の活動に活かすことは出来た。令和８年度は事業所で健康診断を実施出来るように体制を整えていく。

C. 研修計画

・工賃向上研修　強度行動障害基礎研修　就業基礎研修　虐待防止研修
事業所内勉強会（就労アセスメント、なんでも相談窓口）

愛知県の事業である一般就労相談窓口に依頼をして、就労支援の基礎研修を行ってもらった。研修内容を活用できるよう、各職員がアウトプットする機会を創る。しかし、「働く」だけに捉われないよう意思決定支援など我々の基本的な「支援」を見失わないように定期的な研修を組み込んでいく。

Ⅲ．対処すべき課題

異動や退職に伴い、正規職員の就労支援経験年数が 1～3 年目となるため専門的な支援スキルを継続的に学び、実践していくことが必要になる。日々の支援がその場の対処にならないように、法人理念、事業所理念の浸透を進め、利用者を中心にした考え方や行動が出来るようにしていく。そのためにも、改めて個別支援計画の重要性、必要性の理解を深めていく。

また、Ｂ型事業所では順調に平均工賃が上がってきているが、研修計画で記載したように、お金を稼ぐことだけにとらわれないように、基盤となる「支援」を強固にしていく。

Ⅳ．利用者の状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和7年度	令和6年度
就労移行支援	延べ人数	154	142	140	148	152	140	139	145	140	104	69	40	1513	1659
	一日平均	7.0	7.1	6.7	6.4	7.6	6.4	5.8	6.6	7.0	5.2	3.5	1.8	5.9	6.4
	営業日数	22	20	21	23	20	22	24	22	20	20	20	22	256	259
	利用率	70.0%	71.0%	66.7%	64.3%	76.0%	63.6%	57.9%	65.9%	70.0%	52.0%	34.5%	18.2%	59.1%	64.1%
就労継続支援B型	延べ人数	748	679	712	770	612	689	757	672	670	667	635	710	8321	8163
	一日平均	28.8	25.1	28.5	28.5	23.5	26.5	28.0	26.9	24.8	25.7	26.5	27.3	26.7	26.3
	営業日数	26	27	25	27	26	26	27	25	27	26	24	26	312	310
	利用率	95.9%	83.8%	94.9%	95.1%	78.5%	88.3%	93.5%	89.6%	82.7%	85.5%	88.2%	91.0%	88.9%	87.8%
就労定着支援	延べ人数	6	4	4	3	5	5	4	3	0	0	0	0	34	91
	一日平均														
	営業日数														
	利用率														
就労選択支援	延べ人数									0	0	0	0	0	
	一日平均														
	営業日数														
	利用率														

Ⅴ．職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1		1									
サービス管理責任者												
職業指導員	3	2	1		2	2			2			
目標工賃達成指導員		2		1		1						
就労支援員	1				1							
生活支援員	1	9			1	9		1				
調理員		1				1						
合計	6	14	2	1	4	13	0	1	2	0	0	0

令和７年度　　TS ヒマワリ事業報告書

Ⅰ．施設概要　利用実績

施設種別	放課後等デイサービス
事業所番号	２３５８２００１６６
所在地	半田市吉田町４－１７５
事業開始日	平成２４年１０月１日
障害種別	指定なし
定員	１日１０名
開所日/時間	月曜日～金曜日　１２：４５～１７：４５ 土曜・長期休暇　　９：４５～１５：４５

A. 登録市町村 半田市　知多市

B. 利用実績

	放課後等 デイサービス	事業活動収入計 職員数合計
利用定員	10人	
利用者延数	1976人	
１日平均利用者数	7人	
稼働率、稼働指数	73.7%	
稼働日数	268日	
単価（一人一日当たり）	¥11,283	
介護給付費等収入	¥22,294,733	¥22,294,733
職員数（常勤換算）	3.7	3.7

Ⅱ．事業計画・目標の達成状況

A.　運営目標・理念

～将来ステキな大人になるために～

同世代の仲間と

- 『働き続けるために必要な力』『自立するための「いきる」力』を身につける
- 障がいの有無にかかわらず、様々な経験や体験ができる
- 誉められたり、葛藤したりしながら、心の成長ができる

機会をつくり提供する

また、18 歳までの期限付きのサービスであることを前提に、子どもや保護者と

①今までどんなことを頑張り、どんなことに困り、それをどう乗り越えてきたかを聞くこと

②これからどんな風に育ってほしいか、将来はどんな大人になってほしいかを共に描くこと

を大事に「今」を支援する。

B.　事業計画

・放課後等デイサービス　（定員１０名）

1. 『利用率９０％』

新規４名契約。１１月に小学校６年生を新規１名契約。一方で６月、１１、１２月に１名ずつ退所。月曜日のニーズはあり徐々に利用は増えているが、高等特別支援学校に通う方の長期休みの利用が伸びず、全体としては８０％に届いていない。

2. 『就労体験』

AW ひまわりとの体験は実施することはできた。ひだまり喫茶への職場体験も実施でき、実際の製品となる封筒納品の作業も毎月継続できた。実際の働いている様子の見学はできなかった。

3. 『SST プログラム強化』

９月に常勤１名 SST 協会の研修を受講した。SST プログラムは毎月実施することはできなかったが、あいさつの習慣がついてきており、あいさつができる利用者が増えてきたこと、部屋に入る前にノックをして「失礼します」「失礼しました」ができる子も増えてきたことは、日常の支援の中で SST の要素を取り入れたため一定の成果が見られた。

4. 『保護者支援』

プログラム参観日は前期に１回実施。保護者の交流の機会は夏の BBQ、冬のカフェの機会をつくることができた。常勤スタッフがきょうだい児の研修や障害年金の研修を受講し、面談時に活かすことができた。

5. 『地域交流の促進』

地域行事である夏の盆踊りや秋の区民展に参加することができた。プログラムで地域清掃も実施できた。学生ボランティアの受け入れ、社会福祉士の実習受け入れも各２名ずつ行った。また、７月、３月に地域の学童とプチメビと連携しバルーンアートを通して交流する機会をつくることができた。学校訪問も２校実施した

C. 研修計画

TS ヒマワリが求める職員像

障がいのあるなしにかかわらず、多様な子どもたち（外国籍の子も含む）とその家族（きょうだい児も含む）に寄り添い、受け止め、つなぐことができる

①子ども部会ターゲット別研修（管理者向け・中堅職員・初任者向け）　随時
②法人全体研修　年１回
③虐待防止研修　年１回

全受講済。特に上記以外にも「きょうだい児」に関する研修の受講もでき、報酬改定でも新たに明記された家族の中の「きょうだい児への視点」も持ちながら、面談やイベント時に接することができるようになった。

Ⅲ．対処すべき課題

利用率について、前年度と比べ利用率が平均８０％に届かず下降傾向となってしまった。原因としては、市内中学校の特別支援学級の児童が増えたことで、部活動やプログラムを自分で選んで来ることができる

方たちが増えたことが大きい。また月曜日の開所を増やし、小学校６年生にも対象を広げたが、今年度の小学校６年生の新規の利用者は１名であった。この点については、今後も継続して営業をしていくことでまずは、保護者や相談員等に周知を行うこと。その上で、見学・体験・利用につなげる。

同時に、中学高校生を対象としたプログラムにおいて、保護者層の働き方が変わり、預かり機能を求めている保護者も増えてきていることや対象児童の幼さも考慮して、プログラムの改善をより行っていくことが課題である。TS ヒマワリとしては、「中高生向けプログラム」を軸に再構成していことが必要である。

Ⅳ．利用者の状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和7年度	令和6年度
放課後等デイサービス	延べ人数	166	145	152	193	155	176	173	162	177	151	152	174	1976	2068
	一日平均	7.5	6.6	6.6	8.0	7.8	7.7	7.2	7.4	8.0	7.2	6.9	7.6	7.4	8.1
	営業日数	22	22	23	24	20	23	24	22	22	21	22	23	268	254
	利用率	75.5%	65.9%	66.1%	80.4%	77.5%	76.5%	72.1%	73.6%	80.5%	71.9%	69.1%	75.7%	73.7%	81.4%

Ⅴ．職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1		1									
児童発達支援管理責任者	1		1									
児童指導員	3	2			3	2						
保育士												
指導員		2		2				1				1
合計	5	4	2	2	3	2	0	1	0	0	0	1

令和７年度　　ふれあいハウス事業報告書

Ⅰ．施設概要　利用実績

施設種別	共同生活援助
事業所番号	２３２３２０００１０
所在地	愛知県碧南市中山町3－48(ふれあいハウス)　碧南市植出町2－18(スピカ)
事業開始日	平成１７年１０月１日
障害種別	指定なし
定員	１６名

A. 登録市町村 碧南市

B. 利用実績

	ふれあいハウス	ふれあいハウス スピカ	事業活動収入計 職員数合計
利用定員	10人	6人	
利用者延数	3344人	1935人	
１日平均利用者数	9.2人	5.3人	
稼働率、稼働指数	91.6%	88.4%	
稼働日数	365日	365日	
単価（一人一日当たり）	15,940		
介護給付費等収入	53,304,286		53,304,286
職員数（常勤換算）	世話人3.2　生活支援員2.2		5.4人

Ⅱ．事業計画・目標の達成状況

A.　運営目標・理念

「みんなちがって、みんないい」を基本理念とし、利用者及び職員が相互に理解と尊重を深め、同一の生活空間において安心して過ごすことができる環境づくりに努めた。また、利用者及び職員それぞれが役割を担う体制の構築を目標として取り組んだが、現時点では全員に役割が十分に行き渡っている状況とは言えず、引き続き各自の特性に応じた役割設定を進めていく必要がある。

B.　事業計画

①『生活の質の向上を目指す』

食事面においては、デザートの提供回数を増やすとともに、デリバリーサービスを活用し、通常とは異なる献立を取り入れることで、食事に対する満足度の向上を図った。また一部の利用者を対象に外出企画としてサーカス観覧を実施したほか、昨年度に引き続き夏祭りを開催し、地域住民との交流機会を創出した。これらの取り組みにより、日常生活に変化と楽しみをもたらし、生活の質の向上につなげることができた。

②『特殊浴槽の入れ替え』

令和7年10月に特殊浴槽「スカイコート」に入れ替え完了。寝浴型でバブル機能を備えており、利用

者から概ね良好な評価を得ている。また、シャワーチェアーがフラット構造かつ電動昇降式となったことで、介助時における職員の身体的負担軽減が図られた。

③『職員のスキルアップ』

月２回実施している支援センターとの合同会議において、支援上の課題を共有し、勉強会を通じて支援技術の向上に努めた。利用者の高齢化を見据え、障害特性に加え、高齢者介護や認知症に関する知識について、経験豊富な職員から学ぶ機会を設け、職員全体の専門性の向上を図った。

④『ふれあいハウスの分割に向けて』

施設分割については、職員配置の調整や建物構造上の課題（避難経路の確保等）があり、現時点では実現に至っていない。一方、法人により隣接地が取得され、新たにグループホームの建築計画があることから、今後は総合的に検討する必要がある。

C.　研修計画

・一般職員

専門的知識及び支援技術の習得を通じ、グループホーム世話人としての資質向上を図り、利用者が安心かつ安全に生活できる支援体制の構築を目指す。

⇒【外部研修】権利擁護研修　　強度行動障害基礎研修　アンガーマネジメント研修、
高齢者障害研修、包括的性教育について考える研修

⇒【内部研修】権利擁護・虐待防止セミナー、法人全体研修、

・リーダー職員

人材育成及び組織運営に関する能力向上を図り、主体的に判断・行動できる職員の育成を目指す。

⇒【内部研修】志賀研修

Ⅲ．対処すべき課題

１．　利用者の重度化・高齢化への対応

利用者の高齢化及び障害の重度化に伴い、医療的ケアや身体介護の必要性が増している。これに対応するため、職員の支援技術のさらなる向上を図るとともに、医療機関や外部専門職との連携体制を一層強化していく必要がある。

２．　業務の効率化と標準化（属人化の解消）

業務が特定の職員に依存する傾向がみられることから、ITC の活用等により業務の可視化と標準化を進め、誰でも一定水準で対応できる体制の構築が求められる。

３．　生活環境整備

ふれあいハウススピカでは開所以来１４年が経過しており、設備の経年劣化への対応や居住環境の見直しが必要な時期となっている。支出の平準化を図りつつ、優先順位を明確にした段階的な環境整備を行うとともに、突発的な修繕に偏らない計画的な予算管理を行い、安定した事業運営を目指す。

４．　事業構造の見直し

現行の運営体制において大規模減算の対象となっていることから、定員規模や運営形態の見直しが課題である。今後は新棟建設とあわせて機能分化を図り、定員の適正化や居住スペースの有効活用（体験利用、短期入所等）を図ることで、減算の影響を軽減し、安定した収支構造への転換を検討していく。

Ⅳ．利用者の状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和7年度	令和6年度
ふれあいハウス	延べ人数	288	289	281	292	281	282	293	276	282	282	233	265	3344	3352
	一日平均	9.6	9.3	9.4	9.4	9.1	9.4	9.5	9.2	9.1	9.1	8.3	8.5	9.2	9.2
	営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	365
	利用率	96.0%	93.2%	93.7%	94.2%	90.6%	94.0%	94.5%	92.0%	91.0%	91.0%	83.2%	85.5%	91.6%	91.8%
ふれあいハウス スピカ	延べ人数	166	166	161	169	158	147	160	165	153	166	156	168	1935	1900
	一日平均	5.5	5.4	5.4	5.5	5.1	4.9	5.2	5.5	4.9	5.4	5.6	5.4	5.3	5.2
	営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	365
	利用率	92.2%	89.2%	89.4%	90.9%	84.9%	81.7%	86.0%	91.7%	82.3%	89.2%	92.9%	90.3%	88.4%	86.8%

Ⅴ．職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1				1							
サービス管理責任者		1		1								
世話人	2	4	2			4		1				1
生活支援員	1	9		5	1	4						
合計	4	14	2	6	2	8	0	1	0	0	0	1

令和７年度　　ひまわりの家事業報告書

Ⅰ．施設概要　利用実績

施設種別	共同生活援助
事業所番号	2328200015
所在地	愛知県半田市岩滑中町 2-126-2
事業開始日	それいゆ：平成１８年１０月１日
障害種別	指定せず
定員	２０名
開所日/時間	当該月の日数　　１６：００～翌朝９:００

A. 登録市町村 半田市、東海市、東浦町

B. 利用実績

	共同生活援助	事業活動収入計 職員数合計
利用定員	20人	
利用者延数	6607人	
１日平均利用者数	18人	
稼働率、稼働指数	90.5%	
稼働日数	365日	
単価（一人一日当たり）	8,334	
介護給付費等収入	55,062,381	
職員数（常勤換算）	世話人3.1　支援員2.2	

Ⅱ．事業計画・目標の達成状況

A.　運営目標・理念

ともに働き　ともに地域で生きていく

「みんななかま・みんな元気」ホーム＝家（安心して暮らせる家へ）

・部屋を満床にする

・野菜を育てる

・食事を一緒に作る機会をつくる

・地域貢献

・健康管理

・IT 活用

グループホームの１部屋は相談事業所へ部屋の空きを連絡し、体験を経て入居となり、満床とすることが出来た。シェアハウスについては２名の退去者が出た。野菜を育てる事が出来利用者様も水やりを毎日の仕事として行う事ができ皆さんの夕食の材料として使う事が出来、収穫する楽しみを味わうことが出来た。ただ皆が一番楽しみにしていたトウモロコシが不作で残念でした。地域貢献としては月に一度散歩しながらゴミ拾いが出来ず、年に３回のみでした。血圧、検温を毎日行い個々の体温を把握できた為感染した方を早くに見つける事が出来、感染拡大を防ぐ事ができた。IT 活用はケアズコネクトの活用にとどまってしまった。

B.　事業計画

・共同生活援助（定員２０名）

空き部屋も早くに埋める事が出来、非常勤職員での職員配置の為赤字はでなかったが、正職の負担は多かった。体調管理もできコロナウイルス、インフルエンザの感染も最小限で抑える事が出来た。食事希望のメニューを出す事が出来、喜んでもらえた。ゴミ拾い、IT は進める事が出来なかった。

・法人研修

非常勤職員は事業所内研修のみ

Ⅲ．対処すべき課題

職員の高齢化、非常勤職員のみの配置

ご利用者の介護保険への移行

強度行動障害に対しての対応

IT 化が進まない。

夜勤者の配置

Ⅳ．利用者の状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和7年度	令和6年度
共同生活援助	延べ人数	549	557	565	579	568	565	589	560	573	563	524	577	6769	6607
	一日平均	18.3	18.0	18.8	18.7	18.3	18.8	19.0	18.7	18.5	18.2	18.7	18.6	18.5	18.1
	営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	365
	利用率	91.5%	89.8%	94.2%	93.4%	91.6%	94.2%	95.0%	93.3%	92.4%	90.8%	93.6%	93.1%	92.7%	90.5%

Ⅴ．職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	0.5				0.5							
サービス管理責任者	0.5				0.5							
世話人	1	3			1	3						
生活支援員		6		4		2						
世話人（シルバー人材派遣）		6				6		3		3		0
合計	2	15	0	4	2	11	0	3	0	3	0	0

令和７年度　　やまぼうしの郷事業報告書

Ⅰ．施設概要　利用実績

施設種別	共同生活援助
事業所番号	２３２８２００１１４
所在地	半田市池田町１丁目２１３番地１
事業開始日	平成２１年　５月１日
障害種別	指定なし
定員	１９名
開所日/時間	３６５日/２４時間

A. 登録市町村　半田市、碧南市、高浜市、常滑市、阿久比町、武豊町、知多市、東浦町

B. 利用実績

	R7年度実績
利用定員	19人
利用者延数	5387人
１日平均利用者数	14.8人
稼働率、稼働指数	77.7%
稼働日数	365日
単価（一人一日当たり）	8,822
自立支援給付費収入	47,522,384
職員数（常勤換算）	9.3人
障害福祉サービス等事業収入	63,054,579

Ⅱ．事業計画・目標の達成状況

A.　運営目標・理念

重度の障害があっても「自分らしく・のんびり・楽しく」地域で暮らす。

令和７年度は、利用者様の退所や体調面に関する想定外の事態が重なり、当初の計画よりも事業収入や稼働率が下がった。

新規利用者様受入れを検討するも、朝・夕帯の支援職員人数（実数）不足に伴い、支援の質が低下する恐れがあったため、令和７年度内での新規利用者様受入れは断念した。

B.　事業計画

計画：①利用者様の個々のニーズに合わせた個別支援の充実

ふれあい支援センターと協力し、夏祭り・調理活動を行うことができ、利用者様は満足な様子であった。職員間においても､各種イベント開催に向け､協力しあう姿勢がみられた｡個別リフレッシュの日としては、

野球観戦・ライブ参戦・外出食へ行くことが出来た利用者様もいた。しかし、年度初めにどの利用者様がいつ行くか等を決めていなかったため、全員がリフレッシュとしての外出を行う事ができなかった。

計画：②地域との関わり(多文化に触れ合う)

毎月第３土曜日午前中を、利用者様と散歩をしながら地域清掃活動実施日と設定していたが、天候都合により年１２回中３回程しかできなかった。特に夏場は暑さの影響があり、翌週への移行が難しかった。また、８月に初めて、すだちの丘・ふれあい支援センターと合同で、板山地区で実施された盆踊り大会に、一部利用者様のみではあったが参加した。地域住民と一緒に太鼓リズムに合わせて踊ったりできていた。参加した利用者様からは「来年も参加したい。」との希望もあった。

計画：③健康の維持

定時の検温、排泄記録は、継続して実施できた。令和６年度に取り入れた「緊急連絡シート」が、今年度利用者様の発熱や連続痙攣発作等の救急車要請時に活用でき、大きな混乱なく救急隊及びご家族に引き継ぐことができた。また、感染症のゾーニング訓練を前期に実施していため、実際にゾーニングが必要な場面で戸惑うことなくゾーニング対応を行う事ができた。

利用者様の支援や健康に関しては、ふれあい支援センターと協力し、利用者様の支援方法見直しを職員会議内で実施した。

計画：④やまぼうしの郷稼働率を 85%以上にする。

利用者様の退所や体調面に関する想定外の事態が重なり、当初の計画稼働率85%よりも大幅に下がってしまう。

新規利用者様受入れを検討するも、朝・夕帯の支援職員人数（実数）不足に伴い、支援の質が低下する恐れがあったため、令和７年度内での新規利用者様受入れは断念した。

B.　研修計画

やまぼうしの郷が求める職員像

利用者様への支援や業務を自分で考え、皆と共有し、ともに実行する職員

実施研修

- 虐待防止研修及び身体拘束適正化研修（全職員）
- BCP 研修（全職員）
- 感染症対策研修（全職員）
- 半田市現場向け職員研修（一般職員）
- サービス管理責任者更新研修(管理者)
- 法人全体研修

常勤・非常勤職員含め、半田市主催の現場職員向け研修を全職員受講できた。すだちの丘・ふれあい支援センターと合同で BCP 研修や感染症対策研修を職員会議後に開催することで、常勤職員のみならず、非常勤職員の参加率も良かった。研修当日に参加できなかった職員に対しても、後日資料等で研修内容を確認してもらえた。

Ⅲ．対処すべき課題

令和７年７月の利用者様退所後すぐに、新規利用者様の入所を検討したが、朝・夕帯の直接支援の職員配置数が不足し、入所した場合でも、人手不足による“待たせる支援”が主になってしまい、虐待事案(ネグレクト)に繋がる恐れがあったため、令和７年度内の新規受け入れは断念した。利用者様が増えないため、収入・稼働率は減少したが、現場職員は、利用者様１人１人と向き合う時間の増加、時間外労働や休日出勤の減少等がみられ、満足度は多少増加した。しかし、やまぼうしの郷が開所して１７年目に入るにあたり、設備面での修繕費支出が多く見込まれ、さらには、人件費の上昇や世界情勢による物価上昇もあり、現状の利用者様人数では、各費用の上昇分を賄う事ができないため、早期に新規利用者様を入所する必要がある。新規利用者様入所に向け、居宅介護支援事業所や日中事業所等と蜜に連携を取っていく

また、令和７年度内に、１件自治体へ虐待疑い通報があった。市による、防犯カメラ確認や職員・該当利用者様からの聞き取りの結果、虐待認定は受けなかったが、職員１人１人に対して今一度虐待防止についての意識向上の取り組みが次年度も必要となる。

Ⅳ．利用者の状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和7年度	令和6年度
共同生活援助	延べ人数	475	489	462	477	429	439	471	426	441	423	400	455	5387	5523
	一日平均	15.8	15.8	15.4	15.4	13.8	14.6	15.2	14.2	14.2	13.6	14.3	14.7	14.8	15.1
	営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	365
	利用率	83.3%	83.0%	81.1%	81.0%	72.8%	77.0%	80.0%	74.7%	74.9%	71.8%	75.2%	77.2%	77.7%	79.6%

Ⅴ．職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1				1							
サービス管理責任者	1		1				1		1		0	
世話人	1	14	1	2		12		2	1		1	2
生活支援員	9	0	4		5		1		1	1		-1
看護師		2				2						
合計	12	16	6	2	6	14	2	2	3	1	1	1

令和７年度　　すだちの丘事業報告書

Ⅰ．施設概要　利用実績

施設種別	共同生活援助
事業所番号	２３２８２００１７１
所在地	愛知県半田市池田町一丁目３２番１
事業開始日	平成３０年５月１日
障害種別	特定せず
定員	８名
開所日/時間	当該月の日数／１６：００～９：３０

A. 登録市町村 半田市 阿久比町　高浜市(～６月) 常滑市(８月～)

B. 利用実績

	共同生活援助
利用定員	8人
利用者延数	2404人
１日平均利用者数	7.3人
稼働率、稼働指数	91.6%
稼働日数	328日
単価（一人一日当たり）	9,526
介護給付費等収入	22,900,537
職員数（常勤換算）	4.6
障害福祉サービス等事業収益	29,753,989

Ⅱ．事業計画・目標の達成状況

A.　運営目標・理念

基本理念

「共に生き【活き】共につくる【創る】笑顔と安心のあるホーム」

運営方針

・利用者様各々へ、日に一度以上の笑顔が生み出せる心地よい暮らしがあるホーム生活を提供する。

・ひとときの楽しみの笑いのみでなく、今後の生活を成しえるための取り組みで結果笑顔になれる行動も笑いに含む。

ひとときの楽しみの笑いだけではなく、今後の生活へ向けて成しえるための取り組むことも含まれた笑顔を生み出すために、利用者様同士の活動を結び付けるべき場面と、またその逆の利用者様同士を切り離さなければならない場面も生じてきた。

B.　事業計画

計画：①　IT 機器の活用拡大

情報共有の効率化を令和７年度も目指し、iPad を活用した写真や動画による状況報告を導入した。これにより、言語のみでは伝わりにくい情報共有が可能となったが、他事業所へ IT・IoT ツール活用方法の見学は実施する事ができなかった。また、利用者様情報についての情報共有が、以前として口頭での確認にとどまり、データ管理体制の構築や公式 LINE の立ち上げが後回しになった点に関しては、次年度の課題として残ってしまう。

計画：②利用者様の住み心地のよさ向上

新規利用者様の利用開始に伴い、支援の質を高める取り組みとして、全職員が「笑顔で接すること」を意識した結果、新規利用者様は混乱することなく、円滑にすだちの丘での生活を開始する事ができた。行事面では、初の試みとして、駐車場での夏イベント(スイカ割・花火)を実施し、利用者様自身で飾り付け等の準備から参加することで、施設での生活に対する満足度や心地のよさ向上が見受けられた。

しかし、支援手順書の更新担当者が不明確であったため、適時の更新や情報共有が不十分であった。

計画：③増収するには

収益面では、退所者が出た後に速やかに入所調整を行うことで、空床期間を最小限に抑えることができた。人員体制に関しては、ふれあい支援センターと相談し、すだちの丘で支援可能職員を数名増員する事ができた。しかし、開所日を増やせるまでの人員確保までは至っておらず、土曜日開所に向け日中事業所の開拓や人員確保が今後の課題となる。

計画：④地域との交流

地域社会との接点を増やすため、やまぼうの郷・ふれあい支援センターと合同で板山地区の盆踊り大会に初参加し、太鼓や笛の演奏に合わせて住民と共に踊り楽しむことができた。また、施設周辺の草刈りを通じて近隣の方々との対話も生まれている。敷地内の空き地活用については、職員用休憩プレハブの設置や芝生広場、コインランドリーの開設等多くの意見が出ているが、現時点では具体的な方針決定には至っていない。

C.　研修計画

すだちの丘が求める職員像

利用者様・職員などと、共に生活し、共に笑い合える職員

実施研修	法人全体研修	年１回（全職員）
	身体拘束および虐待防止研修	年１回（全職員）
	感染予防対策研修	年２回（全職員）
	半田市主催現場向け職員研修	（全職員）
	サービス管理責任者更新研修	

自身のやりがい、いきがいを見つけ仕事に対しての満足感を高めていくために各種研修に参加。また、小規模事業所のため、研修によっては、やまぼうしの郷・ふれあい支援センターと合同で研修を実施することで、多様な学びを得ることができた。

Ⅲ．対処すべき課題

まず、IT・デジタル化の推進のために、利用者情報の共有が依然として口頭中心となっている現状を改善し、情報をデジタルデータとして蓄積・管理する仕組みを構築していく必要がある。また、令和７年度では後回しとなっていた公式 LINE の立ち上げを早期に進め、関係各所との連絡ツールを確立する。

支援については、支援手順書の更新担当者を明確に設定し、支援内容の変化に応じた適時のマニュアル更新と、全職員間での確実な情報共有を徹底する体制を整えていく。

また、事業の拡大と収益向上に向けては、土曜日の開所増加を実現が必須であり、そのためには、ヘルパーや世話人の確保が不可欠である。あわせて、土曜日に利用可能な日中活動事業所の新規開拓を進める等週末の受け入れ態勢を整えていく必要もある。

最後に、敷地内の空き地利用については、令和８年度中に具体的な活用計画を策定できるように他事業所とともに検討をしていく。

Ⅳ．利用者の状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和7年度	令和６年度
共同生活援助	延べ人数	192	196	185	194	180	212	226	201	199	201	195	223	2404	2432
	一日平均	6.9	6.8	6.9	6.7	6.9	7.6	7.8	7.7	7.7	7.7	7.8	7.7	7.3	7.5
	営業日数	28	29	27	29	26	28	29	26	26	26	25	29	328	326
	利用率	85.7%	84.5%	85.6%	83.6%	86.5%	94.6%	97.4%	96.6%	95.7%	96.6%	97.5%	96.1%	91.6%	93.3%

Ⅴ．職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1				1							
サービス管理責任者	1		1									
生活支援員	2	3	1		1	3						
世話人	1	4			1	4						
看護師		1				1						
合計	5	8	2	0	3	8	0	0	0	0	0	0

令和７年度　　WHJ 相談支援センターメビア事業報告書

Ⅰ．施設概要　利用実績

施設種別	指定特定相談支援・指定障害児相談支援
事業所番号	特定相談支援　　２３３３２０００３４ 障害児相談支援　　２３７３２０００２７
所在地	愛知県碧南市中山町１－７
事業開始日	平成２４年４月１日
障がい種別	指定なし
開所日/時間	月曜日～金曜日　　８：３０～１７：３０

A. 登録市町村

三河地域　…　碧南市　西尾市　刈谷市　高浜市

知多地域　…　半田市　常滑市　武豊町　東浦町　知多市　阿久比町

B. 利用実績

	計画相談	障害児相談	合計	事業活動収入計（年）
契約者数	266人	70人	336人	
月平均利用者数(計画)	22.2人	5.8人	28.0人	
月平均利用者数(モニタリング)	44.6人	11.3人	55.9人	
障害福祉サービス収入	15,964千円	4,304千円	20,268千円	243,211千円
フリースペース(半田)			4,777千円	4,777千円
職員数（計画と障害児の配置は分けていないため合算）			6.0人	

Ⅱ．事業計画・目標の達成状況

A.　運営目標・理念

「よりそい、共に考える」

障がいの有無による分け隔ての無い共生社会の実現に向けて､利用者の方々と共にいき､共につくることで、住み慣れた地域であたりまえの生活を営むにはどうしていったら良いかを一緒に考える。相談支援専門員としてのスキルを高めるために、各地域の圏域ネットワークに参加し情報の収集、事例検討会等への参加をする。利用者一人ひとりによりそった対応を心掛け、多機関連携を図ることで困りごとの早期発見から早期解決、緩和に努める。

B.　事業計画

①人材育成

事業所内における勉強会の実施および、社会福祉協議会等が主催する外部研修・連絡会への参加を通じて、

相談支援専門員としての専門性向上を図った。研修案内は全職員へ周知し、希望者には参加目的を確認することで、個々の育成方針の把握と支援に活かしている。一方で、参加状況には差が見られるため、積極的でない職員に対しては近隣研修等の受講を促し、参加機会の確保に努めた。
日々の朝礼･終礼においては､業務の確認と振り返りを行い､気づきや課題を共有する体制を継続している。また、月に１回の合同会議では、碧南・半田両拠点間の情報交換を実施し、相互理解の深化と新たな視点の獲得につながっている。
事前に議事録へ報告事項を入力する運用を定着させたことで、論点の明確化と会議運営の効率化が図られた。あわせて、発言しやすい環境づくりに努めることで、会議の活性化にも寄与している。
なお､事業所が地域をまたがり職員が分散していることから､管理者が常駐できない状況にある｡そのため、Teams や OneNote を活用し、拠点間および事業所全体での情報共有を徹底し、情報伝達の精度向上と漏れの防止に取り組んだ。

②対処だけではなく、予防的観点からの相談支援の仕組みづくり
基幹相談支援センターおよび行政との連携体制については、十分に構築されているとは言い難いものの、介護保険移行に関しては個別ケースを通じた対応を進められている。
特に６５歳到達時における介護認定申請への理解不足が課題として挙げられる。対象となる利用者の多くはこれまで実費負担のないサービスを利用しており、市からの案内が十分に確認されないケースも見受けられる。このため、相談支援の中で個別に説明を行っているが、十分な理解に至らない場合もあり、市全体での周知体制の整備が求められる。
（碧南）
市内の相談支援体制は社協およびメビアが担っており、一人当たりの担当件数が多い状況にある。基幹相談と特定相談の役割整理が課題であり、基幹相談の機能強化が求められている。
社協に相談支援専門員が３名増員されたことで、担当件数の分散が一定程度進んだ。今後は、入退院を繰り返すケースなど地域移行に関わる事例について基幹相談へ引き継ぐとともに、特定相談で対応可能なケースを積極的に受け持つなど、双方の機能が適切に発揮される体制整備を進めていく。
（半田）
ケース内容に応じて基幹相談と連携し、必要に応じてケース会議への同席を依頼するなど、現状の課題や今後の見通しを共有する体制が定着している。
また、特定相談の範囲を超える対応が求められるケースについても、基幹相談および行政の方針のもと、事業所内で情報共有を図りながら、円滑かつ継続的な支援の提供に努めている。

③地域福祉の推進
（碧南）
常設拠点を持たないことから、地域住民の声を直接把握する取り組みは十分とは言えないものの、法人として地域イベントへの参加調整や、法人内事業所のイベントへの参画、さらに社協主催の地域向けイベント（就労部会・事業所部会合同企画）への参加を通じて、事業所の周知と関係づくりに取り組んだ。
（半田）
フリースペース HB は市の委託事業として２年目を迎え、９月には２周年記念イベントを開催した。今年度は「地域活動支援センターの認知向上」を目的とし、活動紹介を中心とした内容とした。
利用状況には日ごとのばらつきがあるものの、土曜日やイベント開催時には平均１０名を超える利用があり、一定の定着が見られる。マルシェや相談支援連絡会、乙川地区介護予防生活支援協議会、あそボッチャ等への会場提供を通じて、多様な地域住民への周知機会を創出している。

また、利用者同士の交流も徐々に広がりを見せており、今年度は利用者の要望を受けてカラオケを導入した。当初は毎週開催としていたが、音に配慮が必要な利用者への対応として、現在は月２回程度へ調整している。一方で、交流が一部利用者に偏る傾向も見られることから、今後はイベント主催者や地域住民の参加を促進し、より開かれた場としての機能強化が課題である。

令和７年度の計画のまとめ
社会福祉法人として「人」と「地域」を大切にしながら、日々の支援と向き合ってきました。
人材育成においては、一人ひとりの成長を意識し、研修や日々の振り返り、職員同士の対話を通して、学び合える環境づくりを進めてきました。
相談支援では、目の前の課題への対応だけでなく、その人のこれからを見据えた関わりを意識し、基幹相談や行政との連携を重ねてきました。
また、地域との関わりにおいては、イベントへの参加やフリースペースの運営を通して、少しずつ顔の見える関係づくりを進めてきました。人と人がつながる場が生まれつつあることに、手応えを感じています。
一方で、制度の理解や支援の広がり、地域との関係づくりには、まだ十分とは言えない部分もあります。
今後も、「人」に寄り添い、「地域」とともに歩む姿勢を大切にしながら、一つひとつの積み重ねを通して、より良い支援のかたちをつくっていきます。

C.　研修計画
メビアが求める職員像
・職員全体
それぞれの支所の市（圏域）に合った知識・情報を得るべく、職位は問わず相談支援専門員には社協や相談支援連絡会の研修を中心に参加し、情報を知り、顔を広げていくことが大切である。利用者の選択肢が１つでも多く増えること、将来を選択できるように多機関と繋がりを持ち、意思決定支援を行う。

・一般職員
基本的な福祉制度のことはもちろん、相談員の基本姿勢やビジネスマナーを身につけ、外に出たら法人の顔として恥じない行動の取れる対人スキルに秀でた相談員になる。
・リーダー職員
事例検討のファシリテーター、新人の育成、他機関との顔つなぎができ、管理者が他支所にいる時等は現場を任せることができる職員になる。

一般職員
（相談支援における研修や集まりへは職位関係なく相談支援専門員として参加）
・権利擁護研修（法人内・伝達研修）年１回　→達成
・ICT 研修（法人内・伝達研修）随時　→全員の達成には至っていない
・法人全体研修（法人内・全職員）年１回　→達成
・半田市社会福祉協議会相談支援連絡会研修（伝達研修）毎月、（事例検討）不定期　→１名の職員が毎月参加し、2 名の職員が可能な範囲で参加できた
・碧南市相談支援事業所情報交換会（事例検討、交流会）年 4 回　→3 名の職員が参加
・碧南市社会福祉協議会主催の研修（伝達研修、事例検討）不定期　→達成
・相談支援従事者初任者研修（愛知県社協・更新研修）年１回（数日間）→対象職員（今年度は対象者なし）
・碧南市児童発達支援ネットワーク基礎研修（伝達研修）年２～６回　→必要な会に３名の職員がそれぞれ

参加した
・その他相談支援、福祉に係る研修（随時）→社協の行った研修に関しては参加できており、碧海ネットワークの研修も可能な時は参加できた
リーダー職員
・地域共生・街づくりに関する研修→地域共生に関する研修に参加
・志賀道場（キャリアパス研修）（法人内・伝達研修）年３回→対象職員（今年度は対象者なし）
・相談支援従事者現任研修（愛知県社協・更新研修）年１回（数日間）→対象職員（1 名が受講した）
・成年後見人制度研修（後見人センター・伝達研修）随時　→課題に直面した際に個別で相談、受講

Ⅲ．対処すべき課題

今後に向けては、以下の点について重点的に取り組んでいく必要があると考えています。
まず、碧南市・半田市の２市にまたがる事業運営においては、地域ごとの制度や対応の違いを踏まえた柔軟な支援が求められます。特に碧南市においては、予防的な観点からの仕組みづくりに大きな伸びしろがあると感じています。基幹相談支援センターとの関係性をより深めるとともに、関係機関との連携を一層強化し、事業所内での共有にとどまらず、適切なタイミングでの提案や働きかけを行っていくことが重要です。
次に、研修のあり方については、相談支援の専門性に加え、福祉全体や地域に関する理解を広げていく視点が求められます。共生社会の実現に向け、地域の相談窓口としての役割を果たしていくためにも、幅広い分野の研修に目的を持って参加できるよう、職員への働きかけを続けていきます。
また、相談支援には多角的な視点が不可欠であることから、情報の集約と共有のあり方も重要な課題です。職員間で情報量に差が生じないよう、それぞれが得た情報を日々共有し、事業所全体として常に最新の情報を持ちながら、「つなぐ支援」ができる体制づくりを進めていきます。
さらに、フリースペースについては、運営を重ねる中で見えてきた改善点を踏まえ、より地域に開かれた場としてのあり方を模索していきます。委託事業であることを意識しつつ、地域福祉課と丁寧に協議を重ねながら、障がいのある方を中心に、その家族や地域住民も巻き込んだ運営を行い、共生社会を意識した取り組みへとつなげていきます。

Ⅳ．利用者の状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和7年度	令和6年度
計画相談支援	計画	23	31	14	24	36	16	30	13	21	21	21	31	**281**	**288**
	継続	33	34	42	51	41	40	57	35	43	47	34	40	**497**	**545**
障害児相談支援	計画	11	2	8	3	8	5	2	7	6	7	7	10	**76**	**75**
	継続	15	13	21	15	11	14	16	12	17	5	11	17	**167**	**128**

Ⅴ．職員の状況

従業者の	職種		管理者		相談支援専門員		フリースペース世話人	
職種・員数	専従・兼務の別		専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務
常勤（人）	①	②	1		6			
非常勤（人）	③	④					1	
合計			1		6		1	

令和７年度　　ふれあい支援センター事業報告書

Ⅰ．施設概要　利用実績

施設種別	居宅介護　移動支援
事業所番号	２３１３２０００１２
所在地	愛知県碧南市中山町１－７
事業開始日	平成１７年１０月１日
障害種別	指定なし
開所日/時間	月曜日～日曜日　　６：３０～２２：００ ただし、利用者の要請に基づき深夜の対応を行うものとする

A. 登録市町村

碧南市、西尾市、高浜市、刈谷市、半田市、常滑市、知多市、東浦町、武豊町、阿久比町

B. 利用実績

	居宅介護（碧南）	居宅介護（半田）	移動支援（碧南）	移動支援（半田）	事業活動収入計 職員数合計
契約者数	32人	20人	51人	10人	
延利用者数	374人	230人	374人	88人	
サービス提供時間	11,958時間	16,189時間	5,903時間	218時間	
１日平均サービス提供時間	32.8時間	44.4時間	16.2時間	.6時間	
一人当たりのサービス提供時間	32.0時間	70.4時間	15.8時間	2.5時間	
稼働日数	365日	365日	365日	365日	
介護給付費等収入	21,621,210		3,974,732		25,595,942
職員数（常勤換算）	ヘルパー　15.1人				15.1人

Ⅱ．事業計画・目標の達成状況

A.　運営目標・理念

誰もが健やかな毎日を送れるように

ご利用者の高齢化は益々深刻になってきている。杖から歩行器へ、歩行器から車いすへ、排泄方法がトイレで座位だった方が別の方法へと現場でできる限りご利用者を尊重した支援について事業所の会議で話す機会が増えた。365 日稼働している「ふれあい支援センター」へのニーズがより高まる。ご利用者の住み慣れた街で暮らしたい思いに応えるために現場での理解と一人一人に必要な支援が何なのか。意思決定とご利用者の尊厳についてを１番に、日々の支援を振り返りこれからの毎日に生かしたい。満足度調査や本人のしたいこと、やりたいことに焦点を当てて一人ずつ個人の健やかな生活を叶えていきたい。

B.　事業計画

・半田地区

ケアズコネクトや E-SMART 等の導入により事務の負担が軽減されていると感じる。記録や請求に関わるソフトの変更もゆっくりシフト変更できるように準備計画をすすめた。半田エリアの居宅介護支援事業所の協力関係の構築により地域の方へのサービスについて、より充実した支援が提供できるようになると良い。移動支援用の番号も手に入れたのでタブレットを利用して公式ラインの作成に取り掛かる。やまぼう

しの郷にて多くの機会でイベントを開催しました。古希をお祝いするイベントが特によかった。

・碧南地区
　ライフステージの変化に伴う、ご利用者の変化が目立つ。ご利用がなくなったり、支援方法が大きく変わったり、緊急対応が必要だったり課題が大きく、また内容も様々であった。メンタル的な不調がみられる職員について課題であったが乗り越えた感じがする。補充もあったのでシフトや業務について見直し働きやすい環境について取り組む。

・全体
　事業の収入、サービス提供時間、ご利用者の契約者数が減ってきている。
主にグループホームの利用者が変わることが大きな要因ではあるが、碧南に関してはシェアハウスの利用者の変化も大きい。今回受け入れに際して、大きな課題もあった。次回からのご利用者に関しては入居前から必要なアセスメント・利用に際するルール決め等を入念に行う。また今回の報告を機に事業所内でも周知し、対策や業務改善について務めるきっかけとしたい。
　Instagram は比較的に活発で多くの方に見ていただくことができている。有料サービスについて検討していく。
　共生型への参入は今年も引き続き課題。今年度こそ申請を提出する。
C.　研修計画
ふれあい支援センターが求める職員像
・一般職員
「課題を自分で考え、チームで共有し、ともに解決を目指す職員」
・専門性を高める研修
・権利についての研修
　これらを受講することで、日々のご利用者の生活にある違和感に察知し、僕たちが支援員として大切にしないといけないことはなんなのか。振り返る機会としたい。特に利用者の自立に伴う中で欠かせないのは「包括的性教育」や「チームビルディング」があげられる。個々の職員に求められている役割や常勤・非常勤の役割の違い、線引きについて周知できる機会を設けたい。

Ⅲ．対処すべき課題
　職員の高齢化に伴う、シフトへの工夫は不可欠になってきた。同一労働同一賃金は常勤・非常勤だけの問題では、なくなってきている。人員の入れ替えについて行えるように契約書を見直すタイミングで必要な人に面談を行った。ふれあいハウス、やまぼうしの郷、すだちの丘、各々に配置している職員の管理が難しい。
　職員のメンタルヘルスについても課題としてあげられる。不規則な勤務、夜勤の回数は他の事業所と比較してどうしても目立つ。超過勤務や休みに配慮し、せめて負担感を減らせる業務改善について努めたい。
　全体的に利用率が下がっていることも課題に挙げられる。
碧南ではシェアハウスの空き部屋やグループホームの空きがあったこと、居宅の利用者様が減っていることが課題。半田ではグループホームの空き部屋が目立っていることが課題になる。異性介助等の問題についての課題があり、誰でも入居できる状況でないことが大きな原因として考えられる。

Ⅳ．利用者の状況

１．居宅介護

		4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度	合計
碧南	サービス提供時間	1068	1027	1009	1053.5	958.5	967	1006.5	973.5	968	990.5	928.5	1008	11,958
	前年実績	1009.5	1029	980.5	1029	934	880.5	981	1021	987.5	993	967	1040.5	11,853
	前年比（%）	105.8%	99.8%	102.9%	102.4%	102.6%	109.8%	102.6%	95.3%	98.0%	99.7%	96.0%	96.9%	100.9%
	利用者数（名）	31	32	32	32	32	32	31	31	31	31	30	29	374
	前年実績	33	33	34	33	33	34	33	33	34	34	34	34	402
	前年比（%）	93.9%	97.0%	94.1%	97.0%	97.0%	94.1%	93.9%	93.9%	91.2%	91.2%	88.2%	85.3%	93.0%
半田	サービス提供時間	1446	1450	1401	1445	1250	1288	1438.5	1253.5	1334	1253	1259	1371	16,189
	前年実績	1450.5	1456	1530	1506.5	1369.5	1369.5	1473	1487	1231	1241	1273	1420.5	16,808
	前年比（%）	99.7%	99.6%	91.6%	95.9%	91.3%	94.0%	97.7%	84.3%	108.4%	101.0%	98.9%	96.5%	96.3%
	利用者数（名）	19	20	20	21	18	20	18	18	19	19	18	20	230
	前年実績	19	19	21	21	19	20	20	20	20	20	20	20	239
	前年比（%）	100.0%	105.3%	95.2%	100.0%	94.7%	100.0%	90.0%	90.0%	95.0%	95.0%	90.0%	100.0%	96.2%

２．移動支援

		4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度	合計
碧南	サービス提供時間	460	559	463	476	524.5	516.5	493	510.5	508.5	473.5	404	514.5	5,903
	前年実績	557	589	572	507.5	632.5	579.5	540	438	538.5	577	472.5	506	6,510
	前年比（%）	82.6%	94.9%	80.9%	93.8%	82.9%	89.1%	91.3%	116.6%	94.4%	82.1%	85.5%	101.7%	90.7%
	利用者数（名）	48	51	47	44	45	52	53	48	51	48	47	51	585
	前年実績	47	54	47	48	48	43	54	48	51	49	47	49	585
	前年比（%）	102.1%	94.4%	100.0%	91.7%	93.8%	120.9%	98.1%	100.0%	100.0%	98.0%	100.0%	104.1%	100.0%
半田	サービス提供時間	7.5	17.5	27.5	18.5	8	17.5	29.5	27.5	14.5	19.5	14	16	218
	前年実績	23.5	39.5	30	20.5	28.5	24.5	36	38	12.5	15	11.5	17	297
	前年比（%）	31.9%	44.3%	91.7%	90.2%	28.1%	71.4%	81.9%	72.4%	116.0%	130.0%	121.7%	94.1%	73.4%
	利用者数（名）	4	7	9	8	4	8	10	10	6	8	7	7	88
	前年実績	9	9	8	7	8	6	10	7	5	8	5	6	88
	前年比（%）	44.4%	77.8%	112.5%	114.3%	50.0%	133.3%	100.0%	142.9%	120.0%	100.0%	140.0%	116.7%	100.0%

Ⅴ．職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1		1									
サービス提供責任者	3		1		2							
ヘルパー	16	23	10	3	6	20	2	1	1		1	1
看護師												
事務	1					1						
合計	21	23	12	3	8	21	2	1	1	0	1	1